

官報

號外

明治四十四年二月二十二日

水曜日

印刷局

第二十七回 帝國議會 衆議院議事速記録第十四號

明治四十四年二月二十一日(火曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第十三號 明治四十四年二月二十一日

午後一時開議

質問

一 關稅定率法實施ニ關スル質問(千田軍之助君提出)

二 所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問(守屋此助君提出)

三 都市政策ニ關スル質問(日野國明君提出)

四 北海道及樺太經營ニ關スル質問(小橋榮太郎君提出)

五 外國貿易殊ニ對東洋貿易ノ擴張ニ關スル質問(武田貞之助君提出)

六 國定教科書編纂ニ關スル質問(澤來太郎君提出)

第一

明治四十二年度豫備金支出ノ件
明治四十二年度特別會計豫備金支出ノ件
明治四十二年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
明治四十二年度韓國派遣部隊豫備費支出ノ件

(承諾ヲ求ムル件)

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 商法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 商法施行法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第九 不動產登記法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十一 礦業法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十三 明治四十年法律第四十八號中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十五 明治四十年法律第四十九號中改正法律案(政府提出)

第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十七 軍人恩給法中改正法律案(政府提出)

第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十九 明治三十三年法律第七十六號中改正法律案(政府提出)

第二十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十一 明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案(政府提出)

第二十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十三 官吏恩給法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第二十四 官吏遺族扶助法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第二十五 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第二十六 區裁判所名稱變更ニ關スル法律案(山岡國吉君提出)

第二十七 船舶法中改正法律案(米田穰君外二名提出)

第二十八 船舶檢査法中改正法律案(米田穰君外二名提出)

第二十九 北海道拓殖經營案基礎確立及北海道拓殖鐵道急設ニ關スル建議案(小橋榮太郎君提出)

第三十 北海道多額納稅議員選出ニ關スル建議案(小橋榮太郎君提出)

第三十一 樺太漁業料改正ニ關スル建議案(小橋榮太郎君提出)

第三十二 高等染織專門學校設置ニ關スル建議案(武藤金吉君提出)

第三十三 全國荷造改良共進會開催ニ關スル建議案(遠藤吉平君提出)

第三十四 區裁判所事務開始ニ關スル建議案(稻村辰次郎君外一名提出)

第三十五 金名鐵道建設ニ關スル建議案(笠川繼孝君外二名提出)

第三十六 鐵道速成ニ關スル建議案(名村忠治君外四名提出)

第三十七 冷藏事業保護ニ關スル建議案(三浦覺二君提出)

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第一讀會ノ續(委員報告)

第三十八 高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案(根本正君外一名提出)

第三十九 鐵道建設ニ關スル建議案(阿部政太郎君外一名提出) (委員長報告)

第四十 山陰縱貫鐵道速成ニ關スル建議案(德田謙甫君外三名提出) (委員長報告)

第四十一 羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案(高橋光威君外九名提出) (委員長報告)

第四十二 羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案(齋藤宇一君外十名提出) (委員長報告)

○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一 貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

治水費資金特別會計法案

府縣災害土木費國庫補助ニ關スル法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

提出者 河野 郁太郎君

鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 河野 郁太郎君

一千田軍之助君ヨリ米國官憲ノ在布邦人ニ加ヘタル不法行為ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

一松田源治君ヨリ陪審制度設立ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

一請願委員ノ補缺選舉ニ左ノ通り當選セラレタリ

第六部請願委員 濱岡 光哲君

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ掲載ス)

一 去十八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

會計検査院法中改正法律案外一件

日向 輝武君

神前 修三君

岩本 晴之君

村田 虎次郎君

藤崎 朋之君

地租條例中改正法律案

塚田 啓太郎君

橋本 次六君

木下 義之君

千田 軍之助君

關田 嘉七郎君

久保 伊一郎君

所得稅法中改正法律案

川原 茂輔君

黃金井 爲造君

富安 保太郎君

齋藤 宇一郎君

守屋 此助君

國設大公園設置ニ關スル建議案

手塚 正次君

三浦 盛德君 吉田 虎之助君 根津 嘉一郎君

河井 重藏君 木村 義賢君 堀谷 左治郎君

福島縣立農業學校ヲ高等專門學校ト爲スノ建議案

福井 三郎君 佐治 幸平君 佐々木 鐵太郎君

田邊 熊一君 鈴木 寅彦君 平島 松尾君

堀江 覺治君 福留 清四郎君 星 一君

天龍、大井、安倍三大川改修工事ニ關スル建議案

大橋 賴摸君 鈴木 辰次郎君 長 晴登君

小久保 喜七君 田中 龜之助君 高柳 覺太郎君

森田 勇次郎君 矢島 浦太郎君 清水 市太郎君

一 國設大公園設置ニ關スル建議案委員 木村 義賢君辭任ニ付其補闕トシテ淺羽

靖君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一 委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

會計検査院法中改正法律案外一件委員會

委員長 日向 輝武君 理事 神前 修三君

所得稅法中改正法律案委員會

委員長 川原 茂輔君 理事 富安 保太郎君

地租條例中改正法律案委員會

委員長 千田 軍之助君 理事 久保 伊一郎君

國設大公園設置ニ關スル建議案委員會

委員長 清 盛太郎君 理事 手塚 正次君

天龍、大井、安倍三大川改修工事ニ關スル建議案委員會

委員長 鈴木 辰次郎君 理事 田中 龜之助君

福島縣立農業學校ヲ高等專門學校ト爲スノ建議案委員會

委員長 福井 三郎君 理事 星 一君

關稅定率法實施ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年二月三日

提出者 千田 軍之助

贊成者 吉植 庄一郎

外四十九人

關稅定率法實施ニ關スル質問主意書

第二十六回議會ニ於テ政府ハ關稅定率法改正案ヲ提出シ明治四十四年七月ヨ

リ實施セムコトヲ期シタリ議會ハ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘ結局滿場一致ヲ以テ通過シ

政府モ同意ヲ表シテ法律ト爲リタル以上ハ其ノ實施期ニ至リテ之ヲ實施スヘキハ論ヲ

俟タス然ルニ新關稅定率ハ英國ニ於テ之ヲ不利ト爲シ異議アルカ爲政府ハ讓歩シテ

有名無實ナル變務的協定ヲ之ト約スルノ内意アルカ如ク傳フル者アリ其ノ内容ノ一

班ヲ開クニ英國ニ於テ今後日本品ニ對シ新ニ課稅セサルノ條件ヲ以テ我ハ英國ノ重

要輸入品ニ對スル減稅ノ協定ヲ爲スニアルカ如シ是レ自由貿易主義ヲ取レル英國ニ

對シ蛇足ノ條件ヲ約セシメテ我自ラ減稅ノ讓歩ヲ爲スモノニシテ斯ノ如キハ斷シテ新

關稅定率法ノ精神ニ非ス我ハ保護主義ヲ以テ立チ彼ハ自由貿易主義ヲ以テ立ツモノ

ナレハ關稅方針ニ於テ彼我意見ノ合致セサルハ誠ニ已ヲ得サルニ出ツ是ニ於テ我ハ
我カ國是ノ在ル處ニ據リ新關稅定率法ハ斷然之ヲ實施シ茲ニ稅權自治ノ實ヲ舉
クルノ必要アリ故ニ政府ニ於テ斯ノ如キ有名無實ナル協定ヲ爲スノ理ナシト信スルモ
之ニ對スル政府ノ所見果シテ如何
右及質問候也

所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年二月八日

提出者 守屋 此助

贊成者 箕浦 勝人

外三十二人

所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問主意書

一 政府ハ本員ヨリ曩日提出セル所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル質問ニ
對シ去ル六日ヲ以テ答辯書ヲ提出セラレタリ其ノ大要ハ海軍軍備ノ補充製鐵
所ノ擴張水害ノ善後策等歲出増加ノ爲歲計ニ餘裕ヲ存セス故ニ政府ハ所得
稅法ノ改正ハ之ヲ他年ニ期スルノ止ムヲ得サルニ至リタリト云フニアリ
政府ハ昨春二十六回議會ニ於テ四十二年度豫算中官吏増俸案ニ協賛ヲ求
ムル際所得稅法改正ノ誓約ヲ爲セシ時ニハ海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張ノ
如キ重大費目ノ必要ヲ感セスシテ其ノ後僅々數箇月ニシテ四十四年度豫算編
製ノ時突然海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張ノ必要ヲ感シタルヤ又海軍軍備ノ
補充製鐵所ノ擴張ハ左様ニ淺薄ノ發案ナルヤ
二 本員ハ所得稅法改正ノ爲要スル五百萬圓内外ノ財源ノ餘裕ハ數多アルモノト
信ス假ニ政府ノ所見從ヒ其ノ財源ナキ場合ナリトスレハ所得稅法改正ヲ德義
上ノ條件トシテ官吏増俸案ノ協賛ヲ求メタル政府ハ其ノ増俸ノ約三分ノ一
ヲ輕減シテ改正ノ財源ニ充テ其ノ誓約ヲ履行スル政治上ノ德義ヲ有セラレサルヤ
右及再質問候也

都市政策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年二月九日

提出者 日野 國明

贊成者 入江 武一郎

外三十人

都市政策ニ關スル質問主意書

一 都市カ其ノ市内ニ於ケル電氣鐵道、電燈、瓦斯等ノ事業ヲ直營シ又ハ將來直營
ニ移シ得ヘキ條件ヲ附シ或期間ヲ限リ之ヲ私人ノ經營ニ委ネ報償金ヲ納付セシム
ルカ如キ者ニ對シ政府ノ執所ノ方針如何
右及質問候也

北海道及樺太經營ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十四年二月九日

提出者 小橋 榮太郎

贊成者 淺羽 靖

外四十八人

北海道及樺太經營ニ關スル質問主意書

一 政府ハ第二十六回議會ニ於テ四十二年ヨリ拓殖費七千萬圓ヲ支出シ向フ十五

箇年ヲ期シテ帝國ノ一大富源タル北海道拓殖新計畫ヲ樹立シタリ該計畫ニ基ケ
ハ本年則チ四十四年度ノ拓殖費三百二十萬圓ヲ計上サルヘキ旨ナルニ豫定年
度割ヨリ六十二萬餘圓ヲ賦額シテ二百六十七萬六千八百三十七圓ヲ計上シタ
ルニ過キス其ノ理由由邊ニ在ルヤ或曰ク其ノ財源タル北海道ノ自然増收豫期ノ
如クナラザリシ爲ナリト果シテ然ルカ果シテ然リトセハ其ノ原因奈何又政府ノ確信
アリト聲明サレタル道般自然増收ニシテ斯ノ如ク信賴スルニ足ラサル以上ハ勢ヒ
經營案ノ基本ヲ搖撼スルノ憂ナキヲ得ス政府ハ自然増收今後猶且豫期ノ如ク
ナラサルモ向フ十五箇年間ニ拓殖事業完成ノ確信アリヤ
二 政府當局ハ北海道拓殖經營案成立ノ上ハ之ニ伴フ拓殖鐵道ノ敷設ニ從フヘシ
ト第二十六回議會ニ於テ言責ヲ擔ヒタルニ拘ラス四十四年度ノ豫算案ニ徴スル
ニ何等其ノ事實ノ見ルヘキナシ政府ハ拓殖ノ先驅トモ謂フヘキ拓殖鐵道ノ計畫
ヲ離レテ能ク拓地殖民ノ實ヲ擧ゲ得ル成算アリヤ
三 北海道ハ帝國北門ノ鎖鑰ナリ政府當局ハ北海道ニ於ケル現當ノ軍備ニ満足シ
テ北日本警備ノ實ヲ擧ゲ得ヘシト信スルカ
四 政府ハ内地本州ト北海道トノ連絡地點タル青森港ノ修築ヲ奈何セムトスルカ若
夫レ青森港ノ修築ニシテ技術上又ハ財政上ヨリ近キ將來ニ望ミナシトスレハ何
レノ地點ヲ擇ヒテ其ノ連絡ヲ完成セムトスルカ
五 樺太經營ニ關スル政府ノ方針如何
右及質問候也

○議長(長谷場純孝君) 會議ヲ開キマス、御諸ヲ致シマス、議員高山長幸君ヨリ病
氣ニ付キ、昨二十日ヨリ三週間、鈴木友治郎君ヨリ病氣ニ付キ、今二十一日ヨリ八
日間、安川保次郎君ヨリ病氣ニ付キ、今二十一日ヨリ十日間、小山内鐵彌君ヨリ
病氣ニ付キ、今二十一日ヨリ二週間、駒田小次郎君ヨリ病氣ニ付キ、明二十二日ヨ
リ二週間、西能源四郎君ヨリ病氣ニ付キ、今二十一日ヨリ三週間、各、請暇ノ願出ガ
アリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ許可スルコトニ決シマス、菅原傳
君ヨリ國稅徵收法中改正法律案ハ重要議案ナルニ依リ更ニ委員九名ヲ増加シ、十
八名トナシタリト動議ヲ提出セラレマシタガ、之ヲ追加スルニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ九名ヲ追加シテ十八名ニ致シ、而シテ其
選舉ハ議長指名ト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決定致シマス、質問ノ一、關稅定
率法實施ニ關スル質問、提出者千田軍之助君

就中工科大学、理科大學ノ組織ヲ一層擴張シ、之ヲ完全ニシテ、少クとも十年後ニハ我國ノ製造工業界ニ要スル機械ノ如キハ、我國ニ於テ發明シ、製造スルト云フ域ニ至ルマデモ、我國ノ専門教育ノ根柢ヲ深クスルコトデアル、一面ニ於テハ——而シテ一面ニ於テハ昨年二十六議會ニ政府ハ原案ヲ提出致シ、帝國議會ガ是ニ多少ノ修正ヲ加ヘテ結局滿場一致ヲ以テ通過シタルコトヲ我國ニトモ言フベキ保護政策ヲ確立スルノデアリマス、諸君、保護政策ハ實ニ此我國ノ産業即チ經濟社會ノ發達ニ付テハ私ハ大政策、頗ル必要ナル大政策ナリト考ヘテ居リマス、竝ニ我國ニ取ツテ必要ナル大政策アルノミナラズ、諸君、試ミ今日世界一等国ノ伍班ニ列シテ居ル國ヲ御覽ナサイマセ、何レノ國ガ自國ノ産業カ或ル程度ニ達シタルトキニ於テ保護ノ政策ヲ執ラヌト云フ國ハ一國モナイノデアリマス、諸君、英吉利ノ如キハ千八百四十六年以來、全然自由貿易主義ヲ執ツテ居リマスケレドモ、其以前ハ如何デゴザイマシタカ、自國ノ農業工業ニ對シテハ盛ニ保護政策ヲ執タノデアリマス、盛ニ英吉利ニ於テハ保護ノ政策ヲ執ツタ結果、英吉利ノ經濟界ガ大ニ發達ヲ致シタ、此ノ如ク發達ヲ致シタ以上ハ最早自由貿易主義ヲ執ルトモ決シテ英吉利ノ貿易上、英吉利ノ經濟上、他ノ打撃ヲ受クルコトナシト見据ガ立ツタカラ、千八百四十六年以來全然自由貿易主義ヲ執ルニ至ツタデアリマス、此ノ如キ次第デアリマスカラシテ世界中デ保護ノ政策ヲ執ツタ元祖ハ何處ノ國デアルカト云ヘバ、英吉利ガ保護ノ政策ヲ執ツタ元祖デアルノデアリマス、所ガ千八百四十六年以來、英吉利ガ自由貿易ヲ執ルヤ、十年ヲ出デズシテ今日ノ獨逸其當時ノ李滯亞ハ諸君如何ナル政策ヲ執ツタデアリマセウカ、保護ノ政策ヲ執ツタデアリマセウ、獨逸ガ保護政策ヲ執ルヤ、佛蘭西、奧地利、伊太利、露西亞、亞米利加ガ盛ニ獨逸ニ倣ウテ自國ノ發達スベキ産業ニ對シテ盛ニ保護政策ヲ執ツタデアリ、其結果僅々五六十一年間ニ於テ各國ノ富ガ非常ニ進歩致シタルデアリマス、今ヨリ五六十一年前ハ獨逸其他ノ各國ノ統計表ニ依ルト其時ノ富ト云フモノハ日本ノ今日程富シテ居ラナカッタデアリマス、諸君、今日ノ歐洲ノ富ハ驚クベキ富ト云ヒナガラ、近々五六十一年間ノ發達デアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ今マデ五六十一年掛タコトハ今日ハ國家ナリ社會ガ頗ル機敏ニナツテ居リ、又交通ノ便ナドモ頗ル好クナツテ居ルノデ、今マデ五六十一年乃至一世紀掛タコトハ、今後我國ニ於テ五十六年乃至十年、長クモ十五年位ノ間ニ確ニ效ヲ奏シ得ラル、コトデアリマス、故ニ曩ニ申シタ通り一面ニハ大學ノ組織ヲ今一層専門教育ノ根柢ヲ深クシテ、一面ニ於テハ此列國ノ必要トスル保護政策ヲ確立スルト云フコトガ頗ル必要ト思ヒマス、是ハ私ガ言フマデモナク、滿場諸君モ御同感デアルガ故ニ、二十六議會ニ於テアノ問題ノ如キハ滿場一致ヲ以テ通過シテ居ルデアリマス、偕テ此ノ如ク保護政策ガ必要デアルケレドモ 昨年議決致シタル關稅定率法ト云フモノハマダ完全ナルモノトハ申サレマセヌ、故ニ今後時ニ臨シテ時々ハ改正セシケンレバナラヌコトガアルト考ヘマス、就テハ稅權自治ヲ實ヲ此際舉ゲテ置カナクテハ曩ノ風説ノ如ク有名無實ナル雙務的協定稅率ヲ取結ブトカ、或ハ其他ノ方法ヲ以テ讓歩致ス如キコトガアツテハ、マダ十年二十年ノ間ハ即チ稅權自治ノ實ガ舉ガラヌト云フコトニナリマスカラ、保護政策ヲ適宜ニ運用スルコトガ出來ナイ、適宜ニ運用スルコトガ出來ナイト云フコトハ我經濟界ノ發達ヲ非常ニ阻害スル、竝ニ經濟ノミデハナク、國家ノ盛衰消長ニ關スル私ハ問題デアルト信ズルデアリマス、此ノ如ク今回ノ此條約改正及關稅定率法ノ實際ハ我獨立國ノ實權ヲ保チ體面ヲ保ツ上カラ言ヒマシテモ我經濟社會ノ盛衰消長ニ關スル上カラ言ヒマシテモ、至大ナル關係ヲ持ツモノデアリマスカラ、政府ニ於テハ所信ヲ翻スコトナク、即チ二十六議會ニ原案ヲ提出致シ、及說明ヲ致シタ精神、趣旨、帝國議會ガ之ニ對シテ滿場一致ヲ以テ協贊ヲ與ヘタ精神、趣

旨、即ち要スルニ關稅定率法ノ精神、趣旨ハ今日ニ於テモ私ハ政府ハ固ク執ツテ居ルモノト信ズルノデアリマス、果シテ固ク執ツテ居ルナラバ吾々國民代表者タル此衆議院ガ此問題ニ付テハ十分政府ニ後援ヲ與ヘ、ナクテハナラヌト考ヘル、當ニ後援ヲ與ヘルノミナラズ、大ニ奮勵シテ關稅定率法ノ精神、趣旨ヲ誤ラシメナイヤウニセンケレバナラヌト思ヒマス、是ハ吾々ノ義務デアリト同時ニ又權利ナリト私ハ確信スルノデアリマス、諸君、此問題ヲ決議ノ通り即チ關稅定率法ヲ遂行スルナラバ、日英同盟ニ影響スルト云ウテ、昨冬來頻リニ政界ノ一部ニ憂ヘル人ガアリマス、私ノ見ルトコロデハ全ク此稅權自治ノ實ヲ擧グルトカ、保護政策ヲ確立スルト云フコトモ、獨立國ノ權能トシテ當然發動スベキモノデアリマス、決シテ日英同盟ニ影響スルモノデハナイト確信スル、日英同盟ハ諸君ノ御承知ノ通り別ニ雙方トモ、ハッキリシタ目ガアルノデアリマス、今日ノヤウニ社會ナリ國家ノ關係ガ複雜ニシテ來タナラバ、關稅問題ハ關稅問題、又稅權自治問題ハ自治問題、日英同盟ハ日英同盟、此ノ如ク區別シテ、互ニ考ヘナクテハナラヌデアリマス、諸君、一個人ト雖モ甲ノ問題ハ甲ノ問題、乙ノ問題ハ乙ノ問題ナリト區別スル能力ヲ持テ居ル、況ヤ堂々タル二大帝國ガ寄テ一國ノ獨立ハ關稅實權問題ヲ捉ヘテ、直ニ日英同盟ニ影響スルト云フガ如キハ、私ハ杞憂ノ甚シキモノト考ヘル、現ニ英吉利ノ「グレイ」外務大臣ハ自國ノ商業會議所ノ議員ガ外務大臣ニ逢ヒニ行ツタ時分ニ、斯ウ云フコトヲ言ツテ居ル、成ベク諸君ノ希望ハ達スルヤウニ盡力ハ致スデアルガ、併シ此關稅問題ト云フモノハ全ク日本ノ稅權自治ノ範圍内ノコトデアルカラシデ、決シテ抗議ナドヲ申込ムト云フヤウナ譯ニ參ルモノデハナイト、又深く立入ルコトヲ得ル問題デハナイ、唯、友誼的ニ御願申スマデ、アルト云フコトヲ言明サレテ居ル、是ハ「グレイ」氏ノ意見デアリマス、友誼的ニ申込ムナラバ外ノ問題デハ格別、此富ニ關スル、經濟社會ノ發達ニ關スル問題ニナツテハ、却テ我日英同盟ノ友誼ヲ賴リマシテ、英吉利ノ同情ヲ得ナケレバナラヌト考ヘル、曩ニモ云フ如ク我國ノ經濟社會、我國ノ富ト云フモノハ英國初メ其他歐米諸國ニ比ベテ十分ノ一ニモ及バナイノデアル、友誼上カラ依頼スルナラバ、實ニ此關稅定率法即チ此保護政策及稅權自治ノ實ヲ擧グルト云フコトハ、是ハ經濟社會ノ發達ノため必要已ムラ得ズシテ執ル問題デアル、又一ハ獨立國ノ實權ト體面ヲ保ツ上ニ於テ已ムラ得ズ恢復スルモノデアルト云フ事情ヲ訴ヘルナラバ、自分ノ方カラ却テ英國ノ方ノ友誼ニ依ツテ訴ヘルコト理由ガ確カデアラウト考ヘマス、斯様ナ次第デアリマス、少シ重複ニシテヤウデアリマス、私ハヨモヤモ政府ハ所信ヲ翻スコトナク、執チ所信ノ通り昨二十六議會ニ原案ヲ提出シタ通りノ精神、趣旨ハ今日ニ於テモ固ク執ツテ居ルモノト信ジテ居リマス、信ジテ居ルノデアリマス、曩ニ述ベマシタ内外ノ風說ト云フモノハ、是ハ我經濟社會ニ取ツテモ、政治上ニ取ツテモ、萬々一事實デアルガ如キ場合ニハ容易ナラザル關係ヲ持ツ問題デアリマス、故ニ、輕々ニ看過スルコトヲ得ズ、質問趣意書ニ記載シテアルガ如キ質問ヲ提起スルニ至ツタデアリマス、政府ハ此場合其所見ヲ明快ニ御答辯アラントコトヲ國家ノため切望スル次第デアリマス、此場合ニテヨシト附加ヘテ置キタイノハ、此關稅問題ナリ條約改正ニ付キマシデハ、列國ニ駐劄シテ居ル我大使、公使ハ何レモ我國國體是ノアル所ヲ體認致シテ、十分ニ其任務ヲ盡サレツ、アルコト、私ハ信ジテ居リマス、若シモ多クノ大使、公使ノ中ニ我國國體是ノアル所ヲ體認スル念薄クシテ、此間ニ私見ヲ挾シテ此問題ノ進行ヲ阻止スルガ如キ痕跡ヲ存スルモノアルナラバ、政府ハ斷乎決心ヲ以テ是ガ更迭ヲ斷行スベキモノデアルト云フコトヲ併セテ警告ヲシテ置クノデアリマス、甚ダ諄諄デ且長キニ互リテ御清聴ヲ汚シマシテ

○議長(長谷場純孝君) 質問ノ第二、所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問、提出者守屋此助君

(守屋此助君登壇)

○守屋此助君 諸君、本員ハ一月三十一日ニ所得稅改正法律案ヲ政府ガ提出セザル理由ノ質問書ヲ出シマシタラバ、越ヘテ二月六日提出ノ日ト答辯書ノアッタ日ヲ數ヘテ一週間ニシテ、政府ハ答辯書ヲ提出サレタデアリマス、帝國議會開ケテ二十有餘年間、政府ガ此ノ如ク速ニ議員ノ質問ニ對シテ答辯書ヲ與ヘラレタト云フ事柄ハ初メテアル、私ハ前ノ質問書ヲ提出シタトキニ此演壇ニ立ツテ演說ヲナサントスルモ、マダ其時ヲ得ザルニ拘ハラズ、此ノ如ク早く政府ガ答辯ヲ致サレタノハ政府ハ此所得稅ノ改正法律案ナルモノヲ重大案ナリトシテ此案ニ對シテ彼ハ確ニ敬意ヲ拂ヘタノデアル、私モ亦此重大案ニ對シテハ敬意ヲ拂ハニヤナラヌト思ヒマシタカラ、茲ニ再質問書ヲ出シマシタ、是ハ此重大案ニ對シテ慎重ニ御互ニ能ク研究ヲシテ議論ノアルトコロヲ突止メテ見タイト云フコトデ、所謂重大案ニ對シテ私ハ茲ニ敬意ヲ拂フテ提出ヲシタ譯デアリマス、其說明ヲ致シマス、諸君、省キマス、茲ニ一應此書面ヲ讀ミマシテ書面ニ足ラザルトコロヲ尙口デ言フ積リデアリマス、暫ク御清聴ヲ煩ハシマス

所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問趣意書

一 政府ハ本員ヨリ曩日提出セル所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル質問ニ對シ去ル六日ヲ以テ答辯書ヲ提出セラレタリ其ノ大要ハ海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張水害ノ善後策ト歲出増加ノため歲計ニ餘裕ヲ存セス故ニ政府ハ所得稅法ノ改正ハ之ヲ他年ニ期スルノ已ムラ得サルニ至リタリト云フニアリ

政府ハ昨春二十六回議會ニ於テ四十二年度豫算中官吏增俸案ニ協賛ヲ求ムル際所得稅法改正ノ誓約ヲ爲セシ時ニハ海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張ノ如キ重大費目ノ必要ヲ感セシシテ其後僅々數箇月ニシテ四十四年度豫算編製ノ時突然海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張ノ必要ヲ感シタルヤ又海軍軍備ノ補充製鐵所ノ擴張ハ左様ニ淺薄ノ發案ナルヤ

二 本員ハ所得稅法改正ノ爲要スル五百萬圓内外ノ財源ノ餘裕ハ數多アルモノト信ス、假令ニ政府ノ所見ニ從ヒ其ノ財源ナキ場合トスレハ所得稅法改正ノ德義上ノ條件トシテ官吏增俸案ノ協賛ヲ求メタル政府ハ其增俸ノ約三分ノ一ヲ輕減シテ改正ノ財源ニ充テ其誓約ヲ履行スル政治上ノ德義ヲ有セラレサルヤ

右及再質問候也

是ガ今月八日ニ出シマシタ再質問書デゴザイマス、前ノ質問書ハ出シテ一週間デ答辯書ガアリマシタガ、二度目ノ質問書ハ出シテ二週間ニナレドモ、マダ政府ガ答辯ヲ致サナイノデアル、是ハ又二度目ノ諸君ノ中ニハ文書ヲ簡明デアルト云ハレテ居ルガ、政府ノ腦髓ハ餘程弛緩タ見エル、是ダケノ文書デマダ分ラナイト見エテ、今ニ政府ハ答辯ヲ致サレズ、前ノハ一週間デシタモノナラ今度ハ三日位デシテ宜カラウト私ハ思フノデアル、然ルトコロガ尙此文書表デ簡明ニ分ルコト云フコトハ議場ニハ聲ガアツテモ、議員程政府ニ智慧ガナシト見エル、答辯ガアリマセスカラ此事ニ付テ私ハ一二附加ヘテ一ツ申シテ置カウト思ヒマス、此所得稅ノ改正案ト云フモノガ及ボストコロノ影響ト云フモノハ頗ル私ハ重大ナル關係ヲ直接間接ニ及ボストコト思ヒマス、カラ申上ケマス、此昨年ノ議會デ政府ガ協賛ヲ求メタモノガ官吏增俸案デナクンバ、唯一片ノ財政策ニ止マツタモノナラバ宜カラウガ、總令提出セザルモ例ヘバ茲ニ水害ノ補助金是ノ協賛ヲ求メル條件トシテ所得稅ノ改正案ハ明年出ススカラ此水害補助金是ノ協賛ヲ求メル條件トシテ得テ下サイ、其國民生計ノ損ヲ云フモノハ輕カラウト思ヒマス、然ルトコロガ是ガ官吏ノ增俸案ヲ通過セシムルトコロノ一ツノ條件ニナテ居ル、唯奈何セン官吏增俸案ノ條件ト

テ置イテ、其官吏ノ増俸案ハ昨年スカリ通テ國民ノ目ヲ見ルト云フト今ハ公債ノ償還ガアリ、金利ガ下テモ不景氣——不景氣ノ嘆聲ガ止マザルハドウデアアル、所得稅ガ高イ、營業稅ガ高イ、ソレ故ニ實業ヲ爲ス人資本家ハ儲カラナイ、勞働者ハ世ノ中ニ事業ガ起キナイカラ仕事ガナイ、生活難ガ是ニ於テ始テ居ル、此生活難ニ苦シテ居ルトコロノ都會ノ人、地方ノ人、是等ガ文武百官ヲ見レバ文武百官ハ肥馬ニ鞭チ、輕裝ヲ著、其態ヲ見テハ如何ナル國民モ憤リヲ起スノデアアルカラ、少シク例ハ無理カハ存シマセメガ、昔高山彦九郎ガ江戸城ノ壯大ナルコトヲ見、京都ニ到テ御所ノ御質素ナルコトヲ見テ、悲憤慷慨ノ心ヲ懷イタト云フコトガアルデアリマセヌカ、是ハ官吏増俸案ト云フモノハ通テ文武百官ガ肥馬ニ鞭チ、輕裝ヲ著テ居ル態ヲ見テ、其時ノ交換ノ約束物デアアル所得稅法案ガ出ヌト云フコトニナレバ、是コソ過日ノ畏レ多クモ御詔勅ニアル「人心動モスレハ其歸向ヲ變ラヌト」云フ國民ノ心ハ斯様ナコトガ動機ニナテ、如何ナル事變ノ動機ニナルヤモ私ハ測ラヌト云フコトヲ愛慮致シタノデアリマス、ソレデアリマスルカラ私ガ少々文字ノ上ハカリテ見マス云フト、皮肉ナ問ノヤウデアアルガ、皮肉ナ問デアナイ、眞面目ニ吾輩ハ問フノデアアル、政府ハ如何ノ財政計畫ヲ致シテ見テモ、財源ガナクニ云フ場合ニナタナラバ、官吏増俸案増俸シタ中ノ一部分ヲ——全部ヲ削レトハ言ハヌ、幾部分削レテモ此所得稅ノ改正案ヲ出スト云フ赤誠ハナイカ、德義上ノ義務ハ持タナイカ、茲ガ私ガ最も問ハニヤナラヌトコロノ條件デアアル、是ハ市井無賴ノ徒ト雖モ、一ツノ物ヲ買フ代價ヲ拂フノ來月拂ヒマセウツ云フ約束デ、品物ヲ前ノ月ニ取ル、一月ニ品物ヲ取テ、二月ノ末ニ代價ヲ拂ヒマセウツ言ウタキニ、二月末ニ金ガ拂ヘナカッタ、此時ニナテ私ノ妻ガ病氣デアアル、娘ヲ嫁ニヤリマセヌカラ金ガアリマセヌ、拂ヘマセヌ、是デケノコトヲ言ウテ市井無賴ノ徒ト雖モイグレ何年ヲ期シマシテ御拂ヒ申シマセウツ云フ出世證文同様ナモノヲ恬トシテ恥ヂズ、羞辱ノ名譽、面目ノ觀念ヲマルデ拔キニシテ、市井無賴ノ徒ト雖モ、左様ナ無禮ハ致サヌノデアアル、天下ノ高位ニ居リ、紳士トシテ國務大臣ハ天下ノ儀表デアアル、上ノ好ム所下ニ是ヨリモ甚シ、國務大臣ガ天下ニ向テ公約ヲシタコトヲ破ルコトヲ破レルヲ執ツテ棄ツルガ如キ事柄ニ致シテソレデ過日、陛下ガ賜ハリシ所謂「業ヲ勤メ教ヲ敦クスル」教ヲ敦クスルコトヲ御趣意ニ適フカ適ハヌカ、唯教ヲ敦クスルコトヲ勤メ教ヲ敦クスルヲ教師ニ増俸ヲ餘計ヤル、教科書ニ仁義忠孝ノ道ヲ餘計書ク、學校ノ講堂デ倫理ノ講釋ヲ二十分トカ五十分トカ長クスル、左様ナ淺薄ナ御趣意デハ斷ジテナイノデアラウト思フ、又業ヲ勤ムルト云フ事柄モ、所得稅ノ如キモノガ輕クナルト事業ヲシテ國ガ諸カルト云フコトニナレバ、ソレデ國ニ事業ガ興ル、資本家モ之ニ資本ヲ運轉スル、勞働者ノ業モ始テ來ル、此ノ如キ事柄ヲスルト云フコトノ意味ハ確ニ彼ノ御詔勅ニアル「コロノ業ヲ勤ムルト云フ意味デアアルト私ハ拜察シ奉テ居ル、業ヲ勤ムルト云フコトハオ前ハ桑ヲ五十本植ヘロ、コチヲハ蠶ヲ餘計飼ヘヨ、鵲ノ卵ヲ造レ、左様ナ淺薄ナ事柄ハカリテ決シテ意味シテ居ラヌノデアアル、決シテ意味シテ居ラヌト私ハ考ヘルノデアアル、内閣諸公ハ意見ハドウデアアル、然ルニ拘ハラズ内閣諸公ノ爲サレ方ハ如何デアアルカト云フト、製鐵所ノ如キモノヲ何モ今年彼ノ擴張ト云フコトニシテ、一千何百萬圓ト云フ大金ヲ使テ、此所得稅ノ改正案ト引換ニスル程大事ナ私ハ擴張案ダトハ斷ジテ思ハヌノデアアル、此ノ如キ事柄ヲシテ置イテ、サウシテ前申シマシタ通り市井無賴ノ徒ト雖モ尙羞辱、廉恥ノ觀念ノアルモノハ爲サヌル眞似ラシテ、イグレ他年ヲ期スルコト云フ答辯ハ何事ゾヤ、何事ゾヤ、サウデアリマスルカラ私ハ市井無賴ノ徒ト雖モ、大概拂ヘマセヌトキハ御免ト下サイマセ、私ハ拂フ期限ハ確ニ申上セラレマセヌカラ恐入リマスル、此品物ヲハウカ元ノ通り御引取テ願ヒマス、斯フ云フノデアアル、内閣諸公ガ德義ノ念ガアルナラバ、官吏増俸案ヲ國民五千萬ノ昨年協賛ヲ求メテ帝國議會ニ求メテ出シテ貴シタガ、財政

ノヤリクリ上、外ニ財源ガナイカラ仕方ガナイ、此中幾分殺ギマス、ト斯様ニ出ラレテラ——赤誠ヲ瀝イテ出ラレタラバ、是デコソ——是デコソ舉國一致モ出來マセウ、内閣ガ能ク御望ミニナル業ヲ勤ムルト云フ御聖旨ニモ適ヒマセウ、教ヲ敦クスルコト云フコトニモ適ヒマセウ、然ルトコロガ民間ノ人間ダケ德義ヲ重シセヨ、信用ヲ重シセヨ、法律ヲ能ク守レ、天下ノ廣居ニ立テ居ル總理大臣兼大藏大臣ガ、國民ニ向テ約束スル此ノ如クニシテ置イテ、農商務大臣ノ如キ歐羅巴カラ戻ッテ歐羅巴デハ信用ヲ重シズル、會社ノ重役ガ不信用ナコトヲシテハイカナイ、ドコヤラ織物屋ガ不信用ナコトヲスル、羽二重業者ガ不信用ナコトヲスル、是ハイカナイ、信用ハ大事ダ大事ダト言ハレルケレドモ、民間ノ人間ノ信用ヨリ、天下ノ師表トナル内閣總理大臣ノ爲サレ方ノ信用ガヨリ大事デアラウト思フ、政府ハ何モ政府デケガ不信用ナ官營ヲスル權利ハナイ、サウデアリマスルカラ是ハ國民黨ガ何モ政府カラ昨年ノ議會デ約束スル權利ハナイ、政友會ノ諸君ガ受ケタノデアリ、中央俱樂部ガ受ケタノデアリ、日本帝國ノ振テ居ル權利デアアル、サレバコソ政友會ノ諸君ノ中ニモ大々的私ニ御同情ヲ御持チ下サル御方ガ多分アルト云フコトヲ確ニ自惚レテ居リマス、是ハ諸君一黨一派ノ問題デハゴザイマセヌ、帝國ノ諸君ト共ニ我々ガ此權利ヲ握テサウシテ債權ヲ一掃ニ振ッタノデアリマスルカラ、御互ニ政府ガ不都合ナコトヲシタナラバ鼓ヲ鳴ラシテ攻メテ宜イト思フ、諄ク申上ケルヤウデゴザイマスルガ、此事柄ガ鐵道ハ水害ノタメデナク、官吏増俸案ナルヲ奈何セン、此所デ政府ガ傷ミガアルカラ能ク政府ノ諸君ガ御考ニナラヌト、之ガ動機トナテ千里ノ堤モ蟻穴カラ壞レル、人心ノ歸向ヲ最モ誤ラントスルキデアアル、能ク御考ヘニナラヌトイカヌト思フノデアアル、又近頃政府ノ諸君——デハナイ、總理大臣ガ政友會ト情意投合ト云フコトヲ言テ居ラレ、ソレニ付テ政友會ノ諸君ハ如何ノ豫算等ニ於テ御苦心爲サデ政友會ノ方カラ情意投合ガアルコトハ國民確ニ之ヲ認メテ居リマス、政府ガ如何ニモ不居デアアル、政府ガ如何ニモ不居デアアル、私共局外カラ見テモ廬山ノ中ノモノハ廬山ノ眞面目ヲ知ラズデ、政友會ノ諸君ニハ分ラヌカ知ラヌガ、政府ハ少シモアナタ方ニ情意投合ヲ致シテ居ラナイ、ソレデ政治上不吉ナ言葉ガ告アッタ、山縣内閣ト政友會前身ト提携シタトキニ、肝膽片照シト云フ言葉ガ告アッタ、今ノ陋態ハ情意投合デアアル、情意投合デアアルカラ是ハ諸君モ前申上ケル通り何モ一黨一派ノ問題デアナイ、是ハ帝國議會ガ握ッテ居ル權利デアアルカラ、御互ニ此事柄ハ議シテ國家ノため共ニ俱ニ手ヲ携ヘテシタイト云フコトヲ政友會諸君ニ私ガ謹テ御願致ス、ドウカ御同様に答辯メルト云フコトニシテ戴キタイ、左様ナ譯デアリマスカラ政府ハ此事ニ付テドウカ責任アル答辯ヲ今度ハ此演壇ニ立ッテ言ッたらバ、字ノ外ニ審ニナテ居ルト思フカラ、速ニ御答アラントヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 唯今守屋此助君ノ再質問ニ對シテ政府カラ答辯ガアリマス、則讀致サセマス

(書記朗讀)

衆議院議員守屋此助君提出所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十四年二月二十一日

衆議院議長長谷場純孝君殿

(別紙)

衆議院議員守屋此助君提出所得稅法中改正法律案不提出ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

一 海軍軍備ノ補助製鐵所ノ擴張水害ノ善後策等ノ爲メニ要スル經費ハ緊急已

ムラ得サルモノナルコトハ本大臣カ屢々説明シタル所ナリ其必要ノ豫見セラレ得ヘキモノナルト否トハ其緊急ナルノ事情ニ何等ノ影響ヲ與フルモノニアラス政府ハ緊急ノ支出ニ應スルノ計畫ヲ立テ而カモ餘裕ヲ存セサルノ場合ニ於テ敢テ歳入ノ減少ヲ企畫シ依テ以テ財政基礎ノ鞏固ヲ失ハシムル如キハ之ヲ爲スヘキモノニアラスト認ム

二 官吏増俸ハ多年其必要ヲ認メ來リタル所ヲ實行シタルモノニシテ所得稅法ノ改正ヲ爲スト否トニ依リ其必要ニ増減アルコトナシ
右及答辯候也
明治四十四年二月二十一日

大藏大臣侯爵桂太郎

○議長(長谷場純孝君) 三都市政策ニ關スル質問、提出者日野國明君

(日野國明君登壇)

○議長(長谷場純孝君) チョット此場合ニ於テ御諮致シマス、刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案ノ委員會ヲ本會議中ニ開キタイト云フ古賀委員長ノ請求ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス

○日野國明君 本員ハ都市ノ政策ニ關スル質問書ヲ提出致シマシタノデ、質問ノ意義竝ニ之ヲ提出スルコトノ必要ヲ感シマシタ所以ヲ極メテ簡單ニ述ベテ置カウト存スルノデゴザリマス、大體ノ趣旨ハ我國ノ都市ニ於テ——都市ト申シマシタトコロテ極メテ窮屈ナ意味ハ持チマセヌ、先ツ現在ニ於キマシテ市制ヲ施行シテ居ル位ナモノ以上ト云フ意味ニ取ラレテ宜イノデアリマス、都市ガ其都市ノ中ニ於キマスル即チ市街ノ中ニ於キマシテ、電氣鐵道アルトカ、或ハ電燈ノ事業アルトカ、或ハ瓦斯ノ事業アルトカ、斯ウ云フモノヲ都市自ラガ經營ヲ致シマスル場合、又ハ將來之ヲ都市ノ經營ニ移スト云フコトノ條件ヲ付ケテ、一時之ヲ私人ノ經營ニ委シマス、サウシテ之ヲ對シテ報償ヲ取ツテ居ルヤウナモノ、斯ウ云フモノニ對シマシテ政府ハドウ云フ方針ヲ執ルノデアアルカト云フコトヲ問ハント欲スルノデアアル、唯今申シマシタ電氣鐵道、或ハ電燈、或ハ瓦斯ト云フ如キ事業ニ對シマシテ、私ノ議論トシテ考ヘルトコロニ依リマスレバ第一是等ノ事業ト申シマスルモノハ、自由競争ヲ許サナイトコロノ所謂獨占的ノ事業ニ屬シマシテ、其事業ノヤリ方ノ如何ハ即チ經營施設ノ良否如何ハ直ニ其都市及其住民ニ極メテ重大ナル利害ヲ有スルモノデアリマス之ヲ專ラ營利ヲ目的トスルトコロノ私法人或ハ其他ノ私人ノ經營ニスルヨリモ其都市自ラガ經營ヲスルト云フコトハ當然ノコトデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ第二ニハ都市ノ財政ノ上カヲ見マス、都市ノ財源ト云フ側カラ見マシテ、此ノ如キ事業ヲ私人ノ經營ニ委シテ、私人ガソレニ依ッテ得ルトコロノ利益ヲ都市ガ自ラ經營シテ之ヲ都市ノ收入トナス、即チ之ヲ都市ノ財源トナスト云フコトハ都市ノ財政政策ノ上ニ於テモ宜シイコトデアアル、斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、第三ニハ我國ノ法制ノ上ニ於テ即チ地方制度ノ上ニ於テ此精神ハ認メラレテ居ル私ハ信スルノデアアル、市制ノ第八十八條ノ第二項ニハ「市ハ其財產ヨリ生スル收入及使用する料手數料並科料過怠金其他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ市稅及夫役現品ノ賦課徵收スルコトヲ得」ト斯ウ書イテゴザリマス、此市制ヲ制定スル場合ニ於キマシテハ市ノ財源ト致シテハ市稅ト云フ如キモノハ最後ニ置イテ財產ノ收入其他使用料手數料等ノ如キモノヲ以テ先ツ其支出ヲ支辨シ尙足ラナイトキニ於テ初メテ之ヲ租稅ニ課スト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此八十八條ニハ唯今讀ムダ通り

デ營業ニ關スルコトハ書イテアリマセヌ、所ガ市町村制ノ理由書ヲ見マスルト斯ウ云フコトガアルノデアアル、市町村制ノ理由書ノ中ニ「市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ認ムル所ナレバ」云々「市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ賃渡料營業ノ所得市町村稅及手數料等ノ如キ之レナリ」市町村ガ必要ナル費用ヲ支辨スルカ爲メニ收入スルモノ、中ニハ土地家屋等ノ賃渡料ト云フモノヲ舉ゲ、其次ニ營業ノ所得ト云フ文字ヲ舉ゲ、而シテ其後ニ持ッテ行ツテ市町村稅及手數料ト云フコトヲ書イテ居ルノデアリマス、尙其理由書ノ先ニ參リマスルト「市町村ニ於テ其費途ヲ支辨スルカ爲メニ左ノ收入アリ」ト書イテ第一項カラ第四項マデ項目ヲ舉ゲテ居リマス其第一ノ所ニ持ッテ參リマシテ、「一、不動産資金營業ノ所得 斯ウ致シマシテ、營業ト云フ中ニ持ッテ行ツテ「瓦斯局水道等ノ類」ト云フコトヲ入レテ居ル、ソレカラ第二項ニ於テ市町村ノ金庫ニ收入スル過怠金科料ヲ舉ゲ、第三ニ手數料使用料ヲ舉ゲ、最後ノ第四ニ至テ初メテ市稅町村稅ト云フモノヲ舉ゲテ居ルノデアアル、斯ウ云フ上カラ見マスルト即チ私ガ議論ノ上カラ考ヘマスルト、ソレカラ地方制度ノ精神ノ上カラ見マスル所トニ依リマスルト前申シマシタトコロノ電氣鐵道アルトカ、或ハ電燈アルトカ、瓦斯トカ云フヤウナモノハ、都市ノ直營ト致シマスルカ、若シ財源其他ノ事情ニ依ッテ直營トナスコトガ出來ナイナラバ、一時之ヲ他ノ私人ニ經營セシムルトモ將來之ヲ都市ノ直營ニ移スト云フ條件ヲ附シテ、サウシテ報償ヲ取ルト云フヤウナコト、即チ之ヲ簡明ニ申シマスルナラバ是等ノ事業ニ對スル市營政策若クハ報償政策、斯ウ云フモノハドウシテモ政府ニ於テ保護獎勵ナスガ、私ハ當然ト思フ、縱シ保護獎勵ヲシナイマデモ之ヲ妨害スルベキ理由ハナイコトデアアルト信ズルノデアリマス、是ハ私ガ議論ノ上カラ法律ノ精神ノ上カラ論ズルノデアリマスガ、殊ニ私ハ之ヲ必要ト感シマスルノハ、今日ノ我國ノ現在ノ都市ノ狀態デアリマス、諸君我國ノ都市ニ於キマシテ教育アル、或ハ衛生アル、或ハ交通アル、或ハ救濟事業アルト云フヤウナ事柄ニ付キマシテ、都市シテ其爲スベキモノヲ十分ニ爲シテ居ルモノガ何處ニアルデアリマセウカ、他ノ例ヲ私ハ舉ゲル必要ハナイト存シマス、我國ニ於ケル都市ノ第一位ニ居ル東京市ノ狀態ヲ見マスルナラバ、他ノ都市ノコトハ茲ニ申述ベル必要ガナイノデアリマス、此議場ニ東京市長タル尾崎君、助役ノ田川君等ヲ見ナガラ東京市ノコトヲ申シマス、此議場相濟マシテハアリマスガ、併ナガラ都市シテ爲スベキトコロノ仕事ハ未ダ半ヲ爲シ遂步發達ハシテ居リマスルガ、併ナガラ都市シテ爲スベキトコロノ仕事ハ未ダ半ヲ爲シ遂テラレテ居ラスヤウニ思ヒマス(ヒヤッ)「ト呼フ者アリ」最近ノ例ヲ申シマスレバ、此議院ノ南側ヲ流レテ居ル下水デアリマス、私ハ此下水ノ横ヲ通ジテ此議場ヘ參リマスルガ、今日ノ如キ春尙寒キ日ニ於キマシテモ此下水カラハ惡臭紛々トシテ鼻ヲ刺シテ居ル、若シ之ガ炎熱燦々ガ如キ盛夏ニナリマスレバ如何ナルハドウ云フコトデアリマセウ、雨ガ少シ降リマスルナラバ吾ハドウカ致シマスレバ靴ヲ穿イテハ歩ルケナイト云フヤウナ有様アルノデアアル、東京市既ニ此ノ如シデアアル、ソレカラ救濟ノ事業杯ハ如何デアリマセウカ、貧民學校ハ東京市ニ設シテアルト云フコトハ存シテ居リマスガ、貧民ニ對スル施設ノ開院ハ來ル四月一日カラ後アルト云フコトハ存シテ居リマス、即チ今日マデハ斯ウ云フ設備ハナカッタモノ、ソウハ見受ケマス、斯様ナ有様デアリマスガ、殊ニ私ハ茲ニ注意ヲセシナラヌト思ヒマス、ヤウハ、今申シマシタ事項ノ中ノ救濟ノ事業デス、申スマデモアリマセヌガ都市ガ此生活問題ノ激戰地デアルト云フコトハ注意ヲシナケレバナラヌ、生活戰爭ノ最モ激シク行ハレテ其戰爭ニ打勝タトコロノ凱旋將軍ガ此都市ニ居ルト共ニ此戰爭ニ於ケル落伍者、敗者、負傷者ガ都市ニハ澤山居ルト云フコトヲ覺悟セナケレバナラヌ、サスレバ是等ニ對シマシテ此生活戰爭ノ弱イ方ノ側ノモノニ對シマシテ、其赤十字或ハ癩兵院ノ

如キ、救濟事業ヲスルト云フコトハ都市ガ一日モ閑却スベカラザル事業デアルト私ハ思ヒマス(拍手スル者アリ)然レドモデス、斯様ニ考ヘマスルガ、併シ今日之ガドコノ都市ニモ行ハレテ居ラナイ、東京市既ニ行ハレテ居ラナイト云フノハ何ノ故デアリマセウ、都市ノ經營者ハ是等ノ事業ヲ打捨テ置クコトヲ望ムシテ居ル譯デハゴザイマセウ、唯行フコトガ出来ナイノデアリマス、財源ガナイノデアリマス、市町村制ヲ持ヘマスル其當時ノ立法者ガ豫想シタ不動産ノ收入、或ハ資金ノ收入、或ハ手數料、過怠料ノ如キモノハ極メテ僅少デアリ、都市ニ依リマシテハ斯ウ云フ不動産等ノ收入ノ殆ドナイ都市モアルト思ヒマス、其他ニ何ノ收入ガアル、收入ハナイノデアリマス、故ニ市町村制ヲ設ケルトキニハ最後ニ置キマシタ市稅ガ今日ノ都市ノ經營ノ財源中ノ九分九厘ヲ占ムルト云フ有様デアリ、サウシテ租稅ハ是カラ取ルコトガ出来ルカト申シマスレバ、今日ノ都市ノ住民ハ國民トシテ府縣人民トシテ堪ヘ得ルト申シタイデアリマス、此以上ニ都市ノ經營ヲナスタメニ、尙多クノ負擔ヲ強ユルト云フコトハ到底出来ヌコトデアリマス、然ラバ之ヲ如何ニ致スベキカ、唯今申シマシタ事業ノ中ニハ個人トシテ殊ニ富豪トシテ爲スベキ仕事ガアルノデアリマス、富豪ガ當然ノ義務トシテ爲サネバナラヌ仕事モアルノデアリマス、併シ斯様ニ申スコトハ少シ氣ノ毒デアリマスガ、日本ノ富豪ハ歐羅巴亞米利加ニ於ケル富豪程ニ斯ウ云フコトニハ金ヲ投ジナイノガ多ク、彼等ノ多クハ其別荘ヲ作ルタメニハ數万或ハ十數万ノ金ヲ投ジ、一幅ノ書畫ヲ購フタメニ千金ヲ惜マヌヤウデアリマス、此多數ノ弱者貧者ニ向テ救濟ヲスルト云フコトニ至ッテハ、極メテ吝嗇デアルト云フコトハ知ッテ居ル、又是等ノ事業ノ中ニハ國庫ノ補助ヲ受クルコトヲ得ベキモノモアリマス、是ハ所謂其費用ノ幾分ノ補助ヲ受クルコトガ出来ルノミデアリマシテ、全部ノ國庫ノ負擔ニ移スト云フコトハ到底爲シ得ベキコトナインデアリ、サスレバ都市ハ此ナスベキ仕事ヲナスガタメニハ、租稅以外ニ於テ財源ヲ見出サナケレバナラヌ、コレニハ如何ニスレバ宜シイカ、私ハ市町村制ガ制定ノ當時、立法者ノ豫想シタ如ク適當ナル事業ヲ都市ノ經營ニ委ネ、若クバ之ニ代ル報償ノ政策ヲ行フデ以テ、都市ニ財源ヲ與ヘルノ外ハナイト信スルノデアリマス、然レニ諸君、政府ガ從來是等ノ事業ニ對シマシテ執ツタコロノ事績ヲ見マスルト云フコト、本員等ノ豫想ニ反スルモノガ往々アルノデアリマス、一二ノ例ヲ舉ゲテ見ヤウト存ジマスルガ、大阪市ハ此電氣鐵道ニ付キマシテハ豫デヨリ市營ノ主義ヲ立デ、居ルノデアリマス、數年以前政府ハ大阪市ノ意思ニ反シマシテ、或ル電氣鐵道ヲ大阪市內ノ樞要ノ地マデ引込マセタコトガアルノデアリマス、ソレカラ其以後ニ於キマシテハ大阪市ノ反對ヲ恐レタモノデアリマス、存ジマセウガ、企業者ノ側ニ於キマシテ軌道條例取扱コト云フ規則ノ或ル缺點ヲ利用シテ、サウシテ其大阪市ハ電氣鐵道ヲ引張り込マスト云フコトヲ事實ヤシテ居ルノデアリマス、ソレハ何デアルカト云フ軌道條例取扱ノ第二條ニハ斯ウ云フコトガアル、(地方長官ハ軌道ヲ敷設スヘキ公共道路ノ維持費ヲ負擔スル府縣都市町村ノ其公共團體ノ議會若クハ之ニ准スヘキ議會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス、但シ軌道ヲ單ニ道路ヲ橫斷スルニ止マルトキハ此限ニアラス)市ノ内ニ持ッテ來テ電氣鐵道ヲ敷設セントスルトキハ市ノ會議ノ意見ヲ聽カナケレバナラヌト云フ、軌道條例取扱心得ノ第二條デアリ、所ガ大阪市ノ如キハ此第二條ニ依ッテ大阪市ノ意見ヲ聽クト云フト大阪市カラシテ彼此反對ノ意見ヲ申出サレテハ、困ルト云フコトヲ以テ、此但書ノ方ノ但シ軌道ガ單ニ道路ヲ橫斷スルニ止マルトキハ此限ニアラスト云フ此例外ヲ利用致シマシテ、大阪市内ノ道路ガアルニ拘ハラズ其道路ノ僅カ隔ツル處ニ持ッテ行ッテ、普通ノ人家ヲ打貫イテ、即チ道路ヲ橫斷スルト云フコトニシテ、以テ電車ヲ引入レテ居ルト云フ事實ガアルノデアリマス、實ニ是ノミナラズ近來聞キマスルトコロ

ガ、大阪市ガ報償契約ヲ結ンデ居リマス、或ル事業ニ競争ヲ許スト云フヤウナ說モアルノデアリマス、而シテ何故ニ政府ガ此ノ如キコトヲナスカト云フコトニ付テハ風説デアリマス、是ハ政黨員ヲ操縱スル必要カラ出タノデアリ、或ハ政府ノ大臣ト懇意ナ所謂寵商ノ類ヲ保護スルタメニ出タノデアリト云フ風説モアル、私ハ是ガ風説デアランコトヲ望ミマスガ、免ニモ角ニモ此ノ如キ風説ノアルト云フコトハ事實デアリマス、今日マデノ政府ノ行フトコロハ此ノ如キ有様デアリマス、市町村制ニハ此營業ノ所得ヲ租稅以上ニ置イテ居ルニ拘ハラズ今全國ニ於キマシテ、即チ全國ノ都市ニ於キマシテ、市ガ是等ノ事業ヲ直營シテ居ルモノハ横濱ノ瓦斯事業或ハ大阪ノ電氣鐵道等ニシテ、カリ其他報償契約ヲ結ンデ居ルモノモ數フルニ僅シカナイヤウニ思ヒマス、是ハ政府ノ今日マデノ行方ガ宜シクナイカラ斯様ニナッテ來ルノデアラウト考ヘル、政府ガ之ヲ保護シ、獎勵シ、少クモ之ヲ妨害シナカッタナラバ、モウ少シ市町村制ガ豫期シタヤウニ此事業ハ都市ニ發達シテ居ナケレバナラヌ答ト私ハ考ヘルノデアリ、ソレデ質問ノ結局ノ要點ハ茲ニアル、政府ハ將來ニ於テモ尙今日マデノ如ク此電氣鐵道或ハ瓦斯或ハ電燈ノ如キ事業ヲ都市ガ經營シ若クハ經營ニ代ルベキ報償ノ政策ヲ執ラントスル場合ニ於テ之ニ對スル保護獎勵ヲ與フルノ考ナキカ、保護獎勵ハナサザルマデモ之ヲ妨害スルノ考アリヤ否ヤト云フコトヲ問ハント欲スルノデアリ、是デ私ノ質問演說ハ終ッタノデアリマス、此際一言致シテ置キタイコトハ、今日マデ本員ガ此議場ニ於テ質問演說ヲ拜聽致シマスルト云フコトガ眞ノ目的ニアラスシテ、此壇上ニ於テ演說ヲスルコトガ寧ロ目的デアルカノ如キ嫌モノガアル、是ハ甚ダ本員遺憾トスルノデアリ、斯様ナコトガアリマス、併シ本員ノ提出致シマシタコロノ問題ニ對シテ此答ヲ待ツモノハ獨リ本員ノミデハナイデス、都市ノ經營者ハ勿論ノコト、眞面目ナル企業者モ之ヲ聽カント欲スルトコロデアラウト思フ、又所謂操縱シベキ人ガアリトスレバ、操縱サルベキ政黨員モ、所謂寵商モ亦此答ハ聽カント欲スルトコロデアラウト思フ、政府ハ此問ニ對シテ尋常ノ一様ノ簡單ナ答ヲナサズシテ、親切ト寧極メテ眞面目ナル答ヲ與ヘンコトヲ望ムノデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 北海道及樺太經營ニ關スル質問、提出者小橋榮太郎君

(小橋榮太郎君登壇)

○小橋榮太郎君 本員ハ中央俱樂部ノ一員ト致シマシテ、而モ常ニ自己ノ信賴シツ、アルトコロノ政府當局者ニ向ヒマシテ質問スベク此登壇ヲ餘儀ナク致シマシタコトヲ頗ル遺憾ニ存スルノデアリマス、併ナカラ北海道及樺太ノ前途ニ對シマシテ衷心頗ル懸念堪ヘザルモノガアルノデアリマス、而シテ幾度カ熟慮ノ結果、熟慮ノ結果、默シテ已ムハ國家ニ忠實ナル所以ノ途ニアラスト覺悟致シマシタルガ故ニ已ムラ得ズ此壇ニ登リ、次第デゴザイマス、サレバ政府當局者モ亦本員ノ微衷ヲ御諒察アツテ唯一通り、一答ヲ答ナク、親切ニシテ且ツ周到ナル御答ヲ付與セラレントラ豫メ希望致シテ置キマス、ソレカラ今一ツ前以テ是ハ諸君ニモチヨット申上ゲテ置キタイノデアリマスガ、私ハ諸君ノ御手許ヘ差上ゲテ置キマシタ質問書ノ理由ヲ五箇條ニシテゴザイマス、併ナカラ今日ハソレハ更ニ區別致シマシテ十五項ノ質問事項ト致シマシテ、政府ニ問ハント欲スルノデアリマス、併シ私ハ決シテ辯ヲ好ムモノデハナイ、實際已ムラ得ズ此壇ヲ汚シタ次第デゴザイマスルガ故ニ、此十五項ヲ敷衍セバ簡單ニ或ハ其事項其モノガ質問ノ趣意ヲ盡セリトスレバソレデ満足シテ其趣意ヲ敷衍セバ積リデゴザイマスカラシテ、暫ク時間ヲ與ヘラレンコトヲ諸君ニ御願致シテ置キマス、北海道ノ拓殖ノ急要ナルコトハ現内閣モ之ヲ御認メナリマシテ、昨年即チ二十六議會ニ北海道ノ拓殖經營案ト云フモノヲ提出致シマシタ、然

ルニ其際ヨリ本員ハ其拓殖經營案ノ名ト而シテ其内容ト比較致シマシテ、名ノ美ナルニ内容ノ所謂實質ガ伴ハヌヤウナ疑ヲ持シ居リマシタ故ニ、内務分科ニ於キマシテ二三質問ヲ致シマシタケレドモ遂ニ要領ヲ得ズ今日マデ疑ヲ懷キツ、涙ヲ吞ンデ居タ次第デゴザイマス、然ルニ今回所謂此經營案ガ事實ニ行ハレタ初年ノ結果ニ付キマシテ、尙更私ハ默スルコトガ出来ヌヤウナ次第ガアリマシテ、茲ニ此質問ヲスル所以デゴザイマス其事項ノ一ツハ何カト申シマスレバ此拓殖經營ノ財源ニ不確實ナル、自然増収ガ充當シタル政府ノ理由如何、是ガ第一デゴザイマス、此一般歳計豫算編成ノ上ニ於キマシテ自然増収ハ不確實ナル、故ニ減税ノ財源ニモスルコトガ出来ヌ、又繼續事業費ニ充ツルコトモ出来ヌト云フハ現内閣ノ言明スルヲ憚ラザリシ事實アルノデゴザイマス、是ハ諸君モ能ク御記憶ノコト、思ヒマス、然ルニ其現政府ガ不確實ニシテ頼ミ足ラザル自然増収ヲ北海道ノ經營ニ限ツテ充當シタルハ、抑、何ノ理由デアルカ、此理由ヲ聽キタイ、是ガ第一デゴザイマス、ソレカラ第二ハ自然増収ガ若シ確ナルリトスレバ政府當局ハ昨年ノ而モ是ハ分科會ト思ヒマシタ、分科會ニ於キマシテ確信アリト答ヘテゴザイマス、眞ニ政府ガ此北海道ノ自然増収ニシテ信賴スルニ足ルガ確信ノ根據ガアルトシマシタナラバ、何ガ故ニ此七千万圓ヲ全部國庫ノ負擔トシテ、サウシテ自然増収ガアレバ自然増収ヲ更ニ國庫ヨリ取入レルト云フヤウナ策ヲ取ナカッタカ、自然増収ト云ヒマシテモ幾アラマシテモ皆國庫ヘ入ル、果シテ然ラバ國庫ガ七千万圓北海道ノ拓殖費ニ投ゼナケレバナラヌ必要ガアレバ、其七千万圓ヲ國庫ノ確定支出ト致シマシテモ、何等國庫ノ利害ニ關係ノナイ筈ト私ハ深信シテ居リマス、然ルニ政府ハ一面ニ於テハ自然増収ノ確信アリト言ヒナガラ、一面ニ於テハ其確信アルコロノ自然増収ヲ國庫ガ責任ヲ負フコトガ出来ナイ、ト斯ウ云フコトニナツテ居ルデアリマセヌカ、私ハ決シテ現内閣ハ無責任ナルヲ弄スルモノデアルト云フコトハ申シマセヌ、併ナガラ政府ノ言フコロノ口ト其心トガ此案ニ於テ方向ヲ一ニシテ居ラスト云フコトハ茲ニ斷言スルヲ私ハ憚ラヌトコロデアリマス、ソレカラ第三新計畫案ニ基キマスレバ、本年即チ四十四年度ニハ北海道ノ拓殖費ハ三千三百萬圓計上サレナケレバナラヌ譯ニナツテ居リマス、然ルニ本年ノ豫算案ニ依リマスルト二百六十七萬六千八百二十七圓計上シテナイ、此四十四年度ニ於テ政府ガ豫定ノ計畫ヲ變更シタル理由ハ何所ニアルカ、ドウ云フ理由デ第二年ニ於テ此豫定計畫ヲ變更シタルヤト云フノガ、第三ノ問ハント欲スル條項デゴザイマス、第四ハ此四十四年度ノ豫算計畫ヲ變更シタルハ自然増収ガ豫期ノ如クナラザリシタメナリト云フ説ガアル、是ガ果シテ事實デアラヤ否ヤ、是又政府ニ問ハントスルコロノ一ノ條項デアル、而シテ若シ果シテ事實ナリトスレバ、ソレハ立案當初ノ違算ニ基テ譯デアルカ、又ハ其他變更セバナラヌ自然増収ガ豫期ノ如クナラザリシ原因ハ外ニアツタノデアルカ、之ヲ明カニ御答辯ヲ欲シノデアル、ソレカラ第五ハ若シ此自然増収ニシテ果シテ何カノ故障ニ依ツテ減收シタルトスレバ不測ノ故障ハドウ云フ故障デアッタカ、其故障ハ一時のデアリシヤ、又永久ニ影響スベキ故障デアルカ、是ガ第五ニ問ハントスルコロノ私ノ質問條項デゴザイマス、如上ハ此北海道拓殖經營案ノ免モ角唯一ノ財源ト頼ムトコロノ自然増収、是ハ此ノ如ク不確ニシテ信用スルニ足ラズトセバ、其原因ノ如何ハ免モ角モトシテ、政府ハソレデモ尙且豫定ノ如ク十五箇年間ニ拓殖經營案ヲ遂行スルガ成算アルヤ否ヤ、是ガ第六ハ質問デゴザイマス、ソレデモ茲ニチヨツト私ノ杞憂ニ屬スルカ知レマセヌガ、私ノ考フルトコロヲ參考ニ申上ゲマスレバ、若シ本年四十四年度ノ豫算ニ依ツテ現ハレタヤウナ自然増収ノ惡結果アリトシマスレバ、此狀勢カラ以テ致シマスルト、ドウナルカ、此十五箇年繼續事業ハドウ云フ影響ヲ來スカト云フト細カイコトハヨシマス、細目ハ拔キニシマスガ、其調査ノ結果本年通り順々ニ此比例ヲ以テ増収ニ

異動ガアル、ソレデ政府ハ十五年計畫案ヲ繰延ベルコトニナリマス、北海道拓殖經營案ナルモノハ更ニ七箇年經テナケレバ所謂二十二箇年經テナケレバ本當ニ拓殖經營業ノ完成ヲ見ルコトハ出来ヌノデアリマス、併ナガラ私ハ北海道ノ前途ヲ拓殖經營案ニ付キ斯克悲觀スルモノデナイケレドモ、先ツ數字ノ上カラ申シマスレバサウ云フコトニナルノデアリマス、サレバ政府ガ若シ明年モ明後年モ自然増収シテ此ノ如ク減收ヲ來タシテ經營案ノ財源ト頼ミ足ラズト云フコトヲ知ツタ以上ハ、更ニ他ノ財源ヲ求メテ、サウシテ此案ノ補ヲ付ケルカ、又ハ此案ヲ縮小シマシテ、サウシテ財源ニ適フダケノ本當ノ案ヲ確立スルト云フ意見デアルカ、是ガ第六ハ政府當局ニ問ハント欲スルコロデアリマス、第七ハ北海道ノ治水費デゴザイマス、是ハ申スマデモナク日本帝國ノ治水ノ大方針ハ本年ノ議會ニ於テ樹立致シマシタ、是ハ國家ノタメニ慶スベキコトデアル、然ルニ北海道ノ治水費ハドウカト云ヘバ、北海道治水費ニハ此不完全ナル、不確實ナル、頼ミ足ラザルトコロノ北海道ノ自然増収デアルト云フコトデアル、サウシテ帝國ノ治水計畫ニ除外サレシマッタ、是ハドウ云フ譯デアルカ、若モ自然増収ガ政府ノ豫定ノ如クアレバ差支ナイカ、是ハ豫定ノ如ク二十何萬圓カノ違算ニナツテ居リマスカラ相當ニ北海道ノ治水計畫ガ立チマシテモ、サウシテ財源ニ此ノ如キ異動ノアル以上ハ日本ノ治水政策ヲ一定スルニ當リマシテハヤハリ政府トシテ北海道ノ治水ト云フコトニ付テモ一片ノ注意ヲ拂ハナケレバナラヌモノト本員ハ深信スルモノデアリマス、然ルニ北海道ハ自然増収ニ待ツテ、而モ其自然増収ガ確實ナラザルノミナラス北海道ノ除外シテ内地ダケノ治水政策ヲ確立シタイト云フノハ如何ナル譯デアルカ、是ガ第七ハ質問デゴザイマス、ソレカラ第八ハ經營案ト鐵道トノ關係デアリマス、政府當局ハ昨年ノ議會ニ於テ此北海道拓殖經營案ガ出来タ以上ハ是ニ伴フ拓殖鐵道ノ計畫ヲ立ツルト云フコトヲ確ニ聲明サレテゴザイマス、私共モソレニ信賴致シマシテ必ズ是ニ伴フコロノ拓殖鐵道ガ出来ルモノト信ジテ居リマシタ、然ルニ本年議會ニ現ハレテ居ルコロノ北海道拓殖鐵道ナルモノハドウカ、第一期線二期線ハ別デゴザイマス、ドウカト云ヘバ唯線路網ニ依ツテ十八線ヲ畫カレタゲテアツテ、其鐵道ハ何時敷カレルモノデアルカ、又其緩急ハドウナルモノデアルカ、而シテ道路ト港灣ト此鐵道トノ關係トハドウ成行クモノデアルカ、更ニ何等ノ説明モナケレバ又據ツテ見ルベキモノナイノデアリマス、元來私ハ若モ政府ニシテ北海道ノ拓殖經營ヲ本當ニ誠心誠意ニ樹立セントシマスレバ、先ヅ北海道拓殖鐵道ノ政策ヲ一定シナケレバナラヌト思フ、拓殖ニ伴フ鐵道デゴザイマス、幾ラ道路ガ出来テモ港灣ガアツテモ、鐵道ガ悠悠閑々トシテ今日ノヤウナ有様デハ、七千万圓ダケノ金ヲ以テ此拓殖經營ヲ舉ゲルコトハ出来ヌト思フ、極言シマスレバ若モ今日ノヤウナ方デハ七千万圓ヲ假ニ出シテモ海ニ棄テタヤウナ結果ニナリハセヌカト私ハ杞憂ニ堪ヘヌノデアリマス、併ナガラモウ既ニ立ツタ案デゴザイマスカラ、是ハ致方ガナイ、本末ヲ誤ツタハ思ヒマスガ仕方ガナイ、併ナガラ既ニ案ガ立ツタ以上ハ殊ニ内務大臣ハ立派ニ此案ノ成立シタ以上ハ是ニ伴フ拓殖鐵道ヲ敷設スルト云フ言責ノアル以上ハ免モ角モ此經營案ニ伴フダケノ、連鎖聯絡ヲ付ケテ議會ニ說明スルダケノ責任義務アリト私ハ信ズルノデアリマス、然ルニ何等見ルベキコトモナク、唯一ニ線本年ノ豫算三輕便鐵道トシテ入ツタゲデアリマスカラ、何ハ頗ル吾輩ハ其意ヲ得ナイノデアリマス、政府ハヤハリ此鐵道ハ特別會計デアラカラシテ北海道ノ内務省ニ屬スル仕事ト一緒ニヤルコトガ出来ヌト云フナラバ、ソレデモ宜シイ、ソレナラバソレダケノ御答辯ヲ得レバ又更ニソレニ付テ私ハ研究シタイト思ヒマス、是ハ第八ハ質問デゴザイマス、第九ハ假ニ此鐵道ヲ經營案ニ伴ハシメテ敷設スルト致シマシテモ其鐵道ヲ何箇年ニシテ成功スルカ、又十八線ナラハ十八線ノ緩急順序ヲドウ付ケルカト云フコトハ前以テ決定シナケレバナラヌト思ヒマス、北海道ノ鐵道ニ限ツテ特ニ——何ゼナレバ北海

道ハ殖民地アル、サレバ此殖民地ノ政策トシテ一番大切ナルハ移民アル、此移民ニ差支ナイヤウニ騰立スルノガ必要アル、故ニ唯圖面ニ持ッテ行ッテ十八線ヲ引キマシテモ、何時出來ルモノアルカ、何處ヘドウ云フ道路ガ出來ルト云フコトガ分リマセヌケレバ、移民ハ躊躇スル故ニ、先鐵道ヲ敷クナラバ、此鐵道ハ何箇年、此鐵道ハ何時出來ルト云フ具台ニ緩急順序ヲ定メテ、サウシテ繼續事業トシテ明カニ議會ニ提案スルノガ相當ナル政府ノ執ルベキ途アルト本員ハ考ヘマス、若シサウデナケレバ、斯ウナリマス、鐵道ハ明ニヤル鐵道ハ分ラヌ、道路モ明年ニヤル道路ハ分ラヌ、ドウ云フ具台ニ合ニナルカ、能ク豫算ヲ立ツタ上ニ方針ヲ極メテ、鐵道ヲ敷キ、道路モ作ルト、斯ウナリテ來ルト、鐵道ハ右ニ往キ、道路ハ左ニ往ク、斯ウ云フウナ變ガアルノアル、ウレハ唯私ガ此處デ以テ政府ニ對シテ駄ヲ捏ネルノチヤナイ、實際事實ガサウナリテ居ル、現ニ一例ヲ擧ゲマスレバ——澤山アリマスケレドモ、時間ガ經チマスノデ一ツ其例ヲ擧ゲマス、或ル港灣、之ハ經營案デ修築シナケレバナラヌ港灣アル、其港灣ニ向ッテ鐵道ハ臨ンデ居ルガ、港灣ニ押手前デ其工事中止シテ居ル、之ハドウ云フ譯アルカ、何故ニ海陸接續ノ必要ハ何人モ知ッテ居ル、其鐵道ガ港灣ニ臨ンデ居ル港灣政策ガ定マッテ居ラス、二哩殘シテ居ルカト云フコトヲ就デ聽イテ見マスレバ、北海道廳ノ港灣政策ガ定マッテ居ラス、其右ガ港ニナツテ、或ハ棧橋ガ付クノカ、東ガ港灣ニナルカ、ウレガ分ラヌカラシテ先ヅウレノ決定スルマデハ其鐵道ヲ手前デ止メテ置クヨリ仕方ガナイ、斯ウ云フウナコトニナツテ居ルノアリマス、此ノ如ク現ニ交テ來シツ、アルノデアリマスカラシテ、若モ政府ガ眞正ニ誠心誠意ニ此北海道ヲ拓地殖民ノ事業ヲ完成セント欲スルナラバ、先ヅ第一著ニ鐵道政策ヲ定メテ而シテウレカラ其處ニ鐵道ト聯絡セシムルト云フ方針ヲ執ラナケレバ、他日隣ラ噬ムトコロノ悔ガアルデラウト本員ハ確信スルノデアリマス、ウレカラ第十ハ移民政策ノコトニ付テモチヨット御尋シテ見タイと思ヒマス、道廳及内務省ニテハ昨年北海道ニ移民ガ意外ニ不足デアッタト云フノデ、本年ナドハ頻リニ移民獎勵法ヲ講ゼラレテ居ルヤウデアリマス、然レドモ本員ノ見ルトコロデハ移民獎勵ナドト云フノハ抑々未ダアル、日本帝國ノ人民吾々ノ同胞ハ國家ノためトカ、又ハ自分ノ家ノため、或ハ己レ一身ノため、所謂一身ノ保護ノため、所謂利益ノため利益ノアルトコロナラ排斥サレツ、モ亞米利加マデ往クダケノ勇氣ガアル、況ヤ北海道、ナセ移民ガ減少スルカ、何ニモナイ外ノ原因ハ……北海道ニ渡ッテモ死地ニ陥ルヤウナモノアル、之ハ北海道民トシテ私ハ茲ニ斷言スルヲ憚ラス、偶々移民シテ往キマシテモ利益ガナケレバドウナリマスカ、自分ノ愛スベキトコロノ故郷ヲ棄テ、千里ノ波濤ヲ越ヘテ、而モ隣保頼ムニ足ラザルトコロノ無人ノ境ニ入ッテ、家ヲ興シ、利益ヲ收メントスル以上ハ、何カ其利益ガナケレバ決斷ハ到底ムカシコトデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、然レニ政府ハ拓殖經營案成リトシテ、未ダ之ニ伴フ鐵道モ出來ズ、サウシテ唯僅ニ徒ラニ移民バカリヲ獎勵シタトコロデ、何等ノ我輩ノ效果モナク、否ナ之ハ本末ヲ誤ラシ仕事デヤナイカト云フ疑フ常ニ持ッテ居ルモノデアリマス、ウレカラ又移民問題ニ付テモ一ツハ此設備バカリデナク、未開地拂下制度、之モ確ニ私ハ移民ヲ一面ニ右ノ手ヲ以テ移民ヲ招キツ、左ノ手ヲ以テ移民ヲ拒絕シテ居ル障礙物デハナイカト考ヘマス、之モ簡單ニ申シマスレバモウ北海道ハ誰ガ往ッテ儲ケマシテモ、利益ヲ得マシテモ、皆國家ノためアル、然ルニ來ル長官モ來ル長官モ、動モスレバ北海道ノ官林ナリ北海道ノ事業ヲ自己ノ資產ノ如ク非常ニ惜ム、サウシテ其與フルトコロハドウカト云ヘバ、因縁私情、少シモ公平ノマシカラ、何人モ家ヲ越シテ北海道マデ塞サフ衝イテ往ク勇氣ガ出ナイと思フ、故ニ若モ本當ニ政府ニシテ拓地殖民ノ誠意アリトスルナラバ、今少シ開放シマシテ何人デモ北海道ニ渡レバ免ニ角一家ノ生計

ガ出來ルヤウニ——贅澤スル必要ハナイ、一家ノ生計ガ出來ル位ニ不斷ノ設備ヲシテ置カナケレバ移民獎勵ナドト云コトハ幾ラ金ヲ掛ケテ招ギマシテモ、結局不結果ニ終ラウト思フ、要スルニ私ハ移民ハ之ヲ獎勵スルニアラズ、招來スルニアラズシテ招カズシテ來ルト云フヤウニ此北海道ノ總テ設備ヲナスノガ最モ急要デアルト信ヒマス、此點ニ付テ政府ノ所見ハドウデアルカ、ウレヲ聽キタイ、ウレカラ第十二ハ人デアリマス、北海道ノ拓殖政策ノ基礎ガ確立シマシテ、又鐵道ノ聯絡モ付キマシテ、ウレカラ又移民ノ障礙物タルトコロノ制度ガ改善セラレマシテモ、北海道ヲ主宰スルトコロノ人ガ其宜シキヲ得マセヌケレバ、ヤハリ效果ヲ收ムルコトハムツカシイと思ヒマス、私ハ現長官河島君ニ對シテハ常ニ敬意ヲ拂ッテ居リマス、敬服シテ居ル、ナセ敬服シテ居ルカト云ヘバ、彼ノ人ハ赤誠ノ人デアアル、ウレカラ又知リマス、併ナガラ行政官トシテノ長官河島君ハドウデアアルカ、之ハ甚ダ氣ノ毒デアリマス、長官ニ對シテ又私モ言ヒタクナイ、數年來サウ云フ考ヲ以テ居ル、中ニハ私ラ感情ノ衝突カラ來タモノデヤナイカト云フウナ考カラシテ其間ニ立ッテイロノ仲裁ヲ試ミ下サル人ガアル、其御厚意ハ誠ニ辱ナイケレドモ、私ハ感情ノ衝突デアレバ融和スルコトモアルガ、意見ノ衝突デアアル、免モ角河島君ニハ氣ノ毒デアアルガ、河島君ニモウ三年北海道ヲ委セテ置キマシタナラバ、最早如何トモスベカラザルトコトニナルト、カウ私ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、故ニ北海道ヲ案ズルガ故ニ、河島君ヲ排斥セネバナラヌ、カウ云フ譯ニナツテ居ル、先ヅ第一ナセ然ラバ河島君ガ知リマス清廉ノ人デ赤誠ノ人デアッテ、之ガドウシテ往カヌカト云ヘバ、人ハ實行ノ人デナイ、先ヅ北海道ハ參リマシテ五星霜デアリマセウ、札幌ト函館ト汽車以外ニ河島長官ハ北海道ヲ巡視セラレタコトガアルヤ否ヤ、此北海道ノ拓殖經營案ヲ樹立スルニ當リマシテ、現政府ハ内務大臣ノ代理トシテ内務次官、後藤遞信大臣又ハ大浦農商務大臣或ハ司法大臣總テ北海道ヲ免ニ角先ア一通リ巡視シテ、其上計畫ヲ極メタノデアアル、北海道長官ハ赴任以來札幌ニ居リマスレバ札幌ニ止マリ、東京ニ居リマスレバ東京ノ平河町（山本梯二郎君）質問スルナラバ質問ノ趣意ヲ述ベシ「ト呼フ」ヤカマシイ（山本梯二郎君「河島長官ノ排斥演說ヲ此處デスル必要ハナイ、質問ノ趣意ヲ述ベ給ヘ」ト呼フ）ヤカマシイ（趣意ガチツトモ通ラヌデヤナイカ）「妨害スル勿レ」ト呼フ者アリ、山本梯二郎君「妨害デヤナイ、行政官ノ排斥演說ヲ此議會デスル必要ハナイ、此處ハ立法部デ」ト呼フ「排斥演說デヤナイ、趣意ヲ言フノダ、黙ッテ聽給ヘ、決シテ唯愚ミニヤルノチヤナイ先ヅ其何ゼ不適任デアルト云フ證據ヲ一ツニツ舉ゲマセウ——已マラ得マセヌ——斯ウ云フ譯デアリマス、此處ニ西村事務官モ居ラレラ能ク御分リデアアルガ、北海道ノ道路デアル、拓殖經營案ニ道路橋樑費トシテ二千五百四十五萬五千九百三圓ト云フモノガ計上セラレタル、諸君此道路橋樑費ハ何處カラ出テ來タ、此豫算ヲ出ス以上ハ少クモ、免モ角實地測量ヲセヌマデモ踏査位ハ加ヘテ置カネバナラヌ、ケレドモ北海道廳ニハ未ダ本當ノ拓殖道路ノ製圖ガナイ、圖面ガナイ、如何デス、偶々圖面ヲ引イテモ古イ圖面ニ色ヲ著ケテ、著色シテ線ヲ引イタ、ウレガ此經營案ノ本デゴザイマス、ウレハ實地ヲ調查シタヤ否ヤ、是カラ調査スルノデアアル、ウレカラ——唯コ、ラト云フ豫想線デアアル、總テ北海道ノ仕事ハ斯ウナリテ居ルノデ、此處ニ西村君モ居ラレラ、現ニ繪圖面ノナイト云フコトハ私ニ答ヘラレテ居ル、マサカ嘘デハゴザイマス、ウレカスカラ其道路ナルモノハ先ヅ函館方面ニ取ッテ見ルト、前ノ十年計畫モ出來タモノトサレテ居ルノデ、チャント圖面ガ出來テ居ル、其以上今度加ヘル趣意デアアル、其出來タ道路ガ果シテ人馬ヲ往來セシメタルヤ否ヤト云ヒマス、人馬ドコロデハナイ、攀ヂ登ッテモ旅行ガ出來ナイ縣道ニナツテ居ル、圖面ノ上デハ十年計畫ノ際ニ出來タコトニナツテ居ルカラシテ、是カラ向フヲ造ッ

ラ宜カラウト云フ道驛ノヤリ口デアラウト思フ、ソレハ事實ガ、實地ハサウナデ居ル、又一面ニ何十哩ト云フ道路ガアル、ケレドモソレハ自然ニ移住民ガ道路ヲ造ッテ、今日デハ牛馬共ニ立派ニ往來シテ居ル道路デアアル、ソレガ三分一カラアル、然ルニソレガ圖面ニナイ、道驛ノ造ッテ縣道デアイカラ圖面ニナイ、ソレヲ加ヘズニ長イ道路ガ引イテゴザイマス、先ヅコナヤウナ有様、ソレカラ又ハ責任ノアル人ガ實際ヲ見テ來テ話デゴザイマスガ、若シ指名セヨト云ヘバ此席ニ居リマス、或ル所ニ新道ヲ造ッテ、拓殖道路ヲ作ッテ、然ルニ或ル旅人ガ、或者ガ其新道ヲ通リマシテ、新道ヲ七里ハカリ行クト斷岸絶壁デアアル、右ニモ左ニモ行クト出カ来ナイ、遂ニ又七里ノ道ヲ戻ッテ來テサウシテ舊道ヘ廻ッテ、ソレガ新道デス、ドウデス、ソレカラ又斯ウ云フコトガアル、此處ニ新道ヲ造ッテ、然ルニ其橋梁ハ新道ヲ造ル以上ハ、新道ノ先ニ橋梁ヲ造ルノハ先ヅ常識アルヤリト思フ、然ルニ新道ハ造ッテ、橋梁ハ舊イ道ニ架ケテシマッタ、斯ウ云フヤウナ頓馬ナ仕事ガアル、是ガナセカト云ヒマスレバ、要スルニ此道驛ノ長官ハ勿論、此事務官ナドガ皆机上ノ計畫ヲヤル、ソレデスカラ國庫カラ幾ラ金ヲ持ッテ行ッテモ斯ウ云フヤウナヤリ口デハ何等ノ效果ハナイ、若シ斯ウ云フコトニ賛成シテ北海道ニ金ヲ持ッテ往カウト云フナラバ、是ニ吾ミガ賛成スルナラバ、ヤハリ吾ミハ國家ヲ欺クコトニナリマス、吾ミハ忍ビマス、ソレハ(ツツナコトガアルカナ)ト呼フ者アリ(先ヅ言ヒマスレバ澤山アリマス、諸君モ御迷惑デセウカラ)短クシテ呉レ給ヘト呼フ者アリ短クヤリマス、實際堪ヘナイ——第十三ハ軍備、是ハ極ク簡單ニ申上ゲマス、立入ッテ質問ハ致シマス、北海道ノ軍備ハ今日アリマスルトコロノ第七師團デ足レリトスルヤ否ヤ、是ガ先ヅ政府軍事當局ニ向ッテ問ハンモ要塞モゴザイマスガ、アレデア現政府ハ北門ノ警備ハ足レリトシテ居ルヤ否ヤ、現ニ日露戰爭ノ際ニハ浦鹽艦隊ガ津輕海峡ヲ横行シマシテモ、要塞ガアリナガラソレヲ唯眺メテ居ッタル云フヤウナ歴史ガアルノデゴザイマス、若シ將來「バナマ」運河ガ開鑿サレ、西伯利亞鐵道ガ複線トナッテ、北門ニ向ッテ、北日本ニ向ッテ國家非常ノコトノ起ッタル場合ニハ、今日ノ防禦軍事當局ガソレ十分ナリト認メテ居ルカ、將又或ハ更ニ師團ヲ殖ヤストカ、或ハ津輕海峡ノ防備ヲ加ヘルカ云フヤウナ御意見ガアルノデアアルヤ否ヤト云フ御尋ラシタイノデアリマス、ソレカラ第十四ハ青森ト北海道トノ聯絡、所謂内地ト北海道トノ聯絡デゴザイマス、是ハハクドク申上ゲルマデモナク、日本政府ガ現内閣カ、或ハ西園寺内閣デアッタカ、ソレハ問フ必要モナケレバ言フ必要モナイ、免モ角モ政府ガ幾多ノ私設鐵道ヲ買収シテ、サウシテ鐵道ヲ國有ニ致シマシテ趣意ハ何處ニアルカト云ヒマスレバ、帝國ノ公道タル即チ幹線ノ聯絡統一ヲ圖ルノガ其主タル目的デアッタト云フコトハ、是ハ爭フベカラザル事實デゴザイマス、然ルニ北海道ト内地トノ聯絡地點タルコロノ青森港ハ、依然トシテ舊青森港デアアル、政府ハ北海道ト青森トノ聯絡地點ヲ如何ニスル積リデアルカ、言フマデモナク函館ハ今日ハ稍、海陸ノ設備モ整ヒマシテ、又更ニ防波堤モ出來ルト云フヤウナコトニナッテ居リマス、函館灣ノ水陸ノ聯絡ハ十分ニ行カヌデモ、先ヅ十分ニ近イ式ノ輕走船ヲ用井マシテ、從來六時間乃至七時間掛カル航路ヲ四時間乃至四時間半デ聯絡ヲ付ケルコトニナリマシタカラ、確ニ青森港ト函館港トノ聯絡ハ短縮サレテ完全ニナッテ居リマス、函館港ノ陸上設備モ稍、完全ニ近クナッテ居リマス、然ルニ青森港ハ青森市街、所謂青森トノ鐵道トノ聯絡ハドウデアアル、甚ダ寒心ニ堪ヘヌノデゴザイマス、現ニ此間ノ日露戰爭ノトキハ、青森港デ軍隊ノ輸送ガ出來マセヌノデ、茂浦ト云フ附近ノ港マデ船ヲ回シテ、ソレヲ漸ク軍隊ノ輸送ヲシタコトガアルト云フコトモ聞イデ居リマス、政府ハ此青森港ヲドウスル積リデアルカ、此聯絡ハ必要ガナイト云フナラバ

別問題デアアル、併ナガラ政府ハ必ズ聯絡ヲ付ケネハナラヌト云フコトヲ認メテ居ルデアラウト思フ、然ラバ此青森港ヲ聯絡地點トスルニ付テ今日マデ躊躇シテ居ルノハ、或ハ技術上ノコトモアラバ、財政上ノ關係デアイカト思フ、ソレニシテモ近キ將來ニ現在ノトコロデ聯絡地點ガ取ルニ致シマシタナラバ、政府ハドウ地點ヲ以テ北海道ト内地トハドウ云フ風ニシテ聯絡ヲ取ル積リデアルカ、之ヲ御尋シテ置キタイト思フ、ソレカラ樺太ノ經營ニ付テ、是ハ五箇條アリマス、第一、先ヅ政府ノ大方針ヲ聽キマシタ上デ、更ニ質問スルコトモアレハ元ト日本ノ領地、日本ノ領地ハ半分日露戰爭ニ依ッテ戻シテ地デス、然レドモアレハ元ト日本ノ領地、日本ノ領地ハ半分日露戰爭ニ依ッテ戻シテ實タト云フニ過ギナイ、サレバ日本ノ領地デアッタトキハドウデアアルカト云ヒマスレバ、元ト明治二年ニ樺太開拓使ヲ置カレタコトハ政府當局モ御承知デアラウト思フ、其樺太開拓使ヲ置カレタ同時ニ——同時デナク二三箇月經ッテ、其點ハ記憶シテ居リマセヌガ、間モナクデス、北海道開拓使ニ併合サレテシマッタ、是ハモウ歴史ノ上ニ顯著ナル事實デゴザイマス、然ルニ其トキハ樺太ハ全島デアッタノデゴザイマス、然ルニ今日デハドウカ、占領シタノニ違ヒナイケレドモ、其半分デアアル、其半分デアアルカラシテ何モ殊更ニ樺太廳ヲ獨立政廳トシテ置ク必要ハ私ハナイデヤナイカト斯ウ考ヘルノデゴザイマス、然レドモ占領當時ハ或ハ軍國ノ關係トシテ、或ハ外交ノ事情ノ下ニドウシテモ之ヲ特別政廳トシテ置カネハナラヌ必要ガアッタデゴザイマセウカ、今日ハ財政ノ上カラ見マシテモ、ソレカラ又樺太ト北海道ト此漁業政策ノ統一ノ上カラ申シマシテモ、ソレカラ金融機關ノ上カラ見マシテモ、是ハ現ニ今度ノ議會ニ拓殖銀行法改正案ガ出デ居リマス、ソレカラ往キマシテモ、樺太ト北海道トハドウシテモ一緒ニナラネハナラヌヤウナ氣運ニナッテ居リシナイカ、其方ガ國家ノ利益デハアルカト思フノデゴザイマス、然ルニ政府ハ尙此樺太ヲ獨立政廳トシテ多大ノ國費ヲ費ヤシテ居ルガ、政府ハ飽マデモ樺太廳ハ樺太廳トシテ置ク考デアルカ、或ハ時期ヲ待チ北海道廳ト合併スル意思デアルカ、此邊ニ付テ御尋ラシタイト思ヒマス、要スルニ私ノ唯今質問シマシタコトハ、元來ガ討論デゴザイマス、或ハ議論順ヲ失シマシテ、趣意徹底セヌ廉ガアルカモ知レマセヌ、併ナガラ私ハ決シテ其辯ヲ好ムモノデモナク、己ムヲ得ズ此壇ヲ汚シタ次第デアリマス、ドウウ北海道ノ拓殖經營ハ其本當ノ北海道ノ拓殖經營ヲサントスルナラバ、不渡手形デナク、立派ナ手形ノ下ニ政府ハ保障シテ、其基礎ヲ確立セラレンコトヲ望ムト同時ニ又唯今質問シマシタ事項ヲ形式デナク、本當ニ誠意ヲ以テ明確ニ御答辯アラントラ偏ニ希望スル次第デゴザイマス甚ダ……(拍手スル者アリ)

第一

- 議長(長谷場純孝君) 質問ノ五、六ハ提出者カラ延期ヲ申出ラレマシタ、日程第一、明治四十二年度豫備金支出ノ件、明治四十二年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治四十二年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十二年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治四十二年度韓國派遣部隊豫備費支出ノ件、承諾ヲ求ムルノ件、之ヲ議題トナシ、議案ノ朗讀ハ省略シマス
- 明治四十二年度豫備金支出ノ件
明治四十二年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
明治四十二年度特別會計豫備金支出ノ件
明治四十二年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
明治四十二年度韓國派遣部隊豫備費支出ノ件
承諾ヲ求ムルノ件
- (承諾ヲ求ムル件)
- 議長(長谷場純孝君) 説明モナク質問モアリマセヌカラ日程ノ第二、右議案ノ審

查付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス
○菅原傳君 一應政府委員ヨリ説明ヲ致スコトハ相當ト思ヒマスカラ、説明アルマデ延期ヲ望ミマス

○議長(長谷川純孝君) 政府委員ノ出席ナインハ不都合ダ「延期々々」ト呼フ者アリ

○政府委員(若槻禮次郎君) 今政府委員が見エマシタ、若槻政府委員

○政府委員(若槻禮次郎君) 是ハ豫備金支出ヲシマシタモノニ付テ事後ノ承諾ヲ受ケル案アリマシテ、澤山ナ項目ニ涉ッテ居リマスカラ、細目ハ委員會十分御説明ヲ申上ゲマス、ドウゾ御承諾ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 遲延ナカラ政府ノ説明ガアリマシタカラ、是ハ十八名ノ委員——議長ノ指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷川純孝君) 遲延ナカラ政府ノ説明ガアリマシタカラ、議長指名ノ特別委員十八名ニ付託ト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷川純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷川純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷川純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷川純孝君) 御異議ガナケレバ日程ノ第三、商法中改正法律案、第五、商法施行法中改正法律案、第七、非訟事件手續法中改正法律案、三案ヲ一括シテ議題ニ供シマス、議案ノ朗讀ハ省略シマス、岡部司法大臣

第三 商法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第五 商法施行法改正法律案(政府提出貴族院送付)

第七 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス以下之ニ倣フ)

(小字及ハ貴族院修正)

商法中改正法律案

目録中左ノ通改正ス
「第二章 海損」ノ次ニ「第五章 海難救助」ヲ加ヘ「第五章 保險」ヲ

「第六章 保險」ニ「第六章 船舶債權者」ヲ「第七章 船舶債權者」ニ改ム

第七條 法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムト

キハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スル

コトヲ得ス

第二十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

財產目録ニハ動産、不動産、債權其他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スル

コトヲ要ス其價額ハ財產目録調製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス

第三十條ノ二 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ム

ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ主人ニ對シ

テ其效力ヲ生ス

第三十一條ノ末尾ニ「前條第一項ニ定メタル事項及ヒ其變更並ニ消滅亦同

第四十一條中「物」ノ下ニ「又ハ有價證券」ヲ加フ

第四十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲

ヲ爲スヲ業トセサルモノ之ヲ會社ト看做ス

第四十四條ノ二 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其他設立ニ關スル

行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條、第二百九條及ヒ第二百四十四條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ

準用ス

第四十八條ノ二 本編ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要

スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第五十一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

七 數人ノ社員カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其

代表ニ關スル規定

第六十一條ノ二 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ

テ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第三十條ノ二 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合

資會社ト爲スコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準

用ス

第八十三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ

得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本

店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合名會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合資會社

ニ付テハ第七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條ノ四 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ有限責任社員ヲ加入セシ

メ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ合資會社ト爲リタル時ヨ

リ二週間内ニ前條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支

店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 清算人ノ氏名、住所

二 會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名

三 數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ

其代表ニ關スル規定

第九十一條第二項中「清算人」ヲ「會社ヲ代表スヘキ清算人」ニ改ム

第九十一條ノ二 會社ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ

要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑

定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第九十三條但書ヲ削ル

第九十三條ノ二 第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準

用ス

裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メ

ス又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ其清算人ハ各自會社ヲ代表ス

第九十七條 第九十條ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十九條ノ二 會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テ之ヲ無効ト主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス數箇ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及ヒ裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ四 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス

原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス

第九十九條ノ五 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ六 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行為ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第九十條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九十條ノ二 合資會社ハ社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九十條ノ三 第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ四 第五號及ヒ第六號ニ改ム

第九十條ノ五 第六號ヲ削リ第七號ヲ第六號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ六 第七號ヲ削リ第八號ヲ第七號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ七 第八號ヲ削リ第九號ヲ第八號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ八 第九號ヲ削リ第十號ヲ第九號トシ以下順次繰上ク

テモ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス

第四百二十二條ノ三 會社カ成立セサル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付キ連帶シテ其責任ヲ負ス

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

第四百二十二條ノ四 取締役又ハ監查役カ第三百二十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三項ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負スヘキ場合ニ於テ發起人モ亦其責任ヲ負スヘキトキハ其取締役、監查役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス

第四百二十五條 第二項但書ヲ削ル

第四百四十八條中「署名スルコト」ヲ「署名シ又ハ記名、捺印スルコト」ニ改ム

第四百五十條中「讓渡」ヲ「移轉」ニ、「讓受人」ヲ「取得者」ニ改ム

第四百五十二條ノ二 左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第四百五十三條ノ二 前條第一項ノ規定ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滞ナク其株主ノ氏名、住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス

第四百五十四條中「前條」ヲ「第四百五十三條」ニ改ム

第四百五十五條ノ二 無記名式ノ株券ヲ有スル者カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス

第四百五十六條中「總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項」ヲ「會議ノ目的タル事項」ニ改ム

第四百五十八條 削除

第四百六十條中「總會ノ目的」ヲ「會議ノ目的タル事項」ニ改ム

第四百六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監查役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ニ選任スルコトヲ得

第四百六十一條 第二項左ノ如ク改ム

第九十條ノ九 第十號ヲ削リ第十一號ヲ第十號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十 第十一號ヲ削リ第十二號ヲ第十一號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十一 第十二號ヲ削リ第十三號ヲ第十二號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十二 第十三號ヲ削リ第十四號ヲ第十三號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十三 第十四號ヲ削リ第十五號ヲ第十四號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十四 第十五號ヲ削リ第十六號ヲ第十五號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十五 第十六號ヲ削リ第十七號ヲ第十六號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十六 第十七號ヲ削リ第十八號ヲ第十七號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十七 第十八號ヲ削リ第十九號ヲ第十八號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十八 第十九號ヲ削リ第二十號ヲ第十九號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ十九 第二十號ヲ削リ第二十一號ヲ第二十號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十 第二十一號ヲ削リ第二十二號ヲ第二十一號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十一 第二十二號ヲ削リ第二十三號ヲ第二十二號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十二 第二十三號ヲ削リ第二十四號ヲ第二十三號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十三 第二十四號ヲ削リ第二十五號ヲ第二十四號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十四 第二十五號ヲ削リ第二十六號ヲ第二十五號トシ以下順次繰上ク

第九十條ノ二十五 第二十六號ヲ削リ第二十七號ヲ第二十六號トシ以下順次繰上ク

第四百六十三條 總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ得

株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又株主カ總會ニ出席セサル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會召集ノ手續カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルコトニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第四百六十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十三條ノ二 決議無効ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一個月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得

訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第六十三條ノ三 株主が決議無効ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主が取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス

第六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其決議ヲ無効トスル判決ヲ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

會社ヲ取締役トシテ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ
第六十六條但書ヲ左ノ如ク改ム
但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第六十七條ノ二 取締役ノ任務ヲ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ退任シタル取締役ハ破産及ヒ禁治產ノ場合ヲ除ク外新ニ選任セラレタル取締役が就職スルマテ仍ホ取締役ノ權利義務ヲ有ス

第六十八條 定款ヲ以テ取締役が有スヘキ株式ノ數ヲ定メタルトキハ取締役ハ其員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス
第七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人ノ取締役が共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第三十條ノ二第二項及ヒ第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス
第七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對シテ通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其者か會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第七十三條中第六號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ第七號ヲ第九號トシ以下順次繰下ク
七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其拂込ノ金額及ヒ時期
八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日

第七十七條 取締役が其任務ヲ怠リタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
取締役が法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ○第二者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第七十八條中「其株券ヲ供託シ且」ヲ削ル
第八十條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス
第八十六條 監査役が會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトキハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス

第八十七條中「其株券ヲ供託シ且」ヲ削ル
第八十八條 創除
第八十九條 第六十四條、第六十六條但書、第六十七條、第六十八條、第七十條、第七十二條及ヒ第七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第七條ノ二、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第九十條ノ二 財産目録ニ掲グル動產、不動產、債權其他ノ財産ノ價額ハ取引所ノ相場アル財産ニ付テハ財産目録調製ノ時ニ於ケル相場ニ、其他ノ財産ニ付テハ財産目録調製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス但其相場又ハ價額が財産ノ取得價額又ハ製作價額ニ超ユルトキハ其取得價額又ハ製作價額ニ超ユルコトヲ得ス

○會社ノ
繼續シテ營業ノ用ニ供スル財産ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ハラズ其取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得

第九十一條中「前條」ヲ「第九十條」ニ改ム
第九十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム
會社ハ損失ヲ填補スル爲メ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテ準備金トシテ利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

第九十五條 第二十六條第二項ノ規定ニ依リテ會社ノ財産ニ附スル價額が取得價額又ハ製作價額ニ超ユルトキハ其差額ハ利益トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス
第九十六條 會社が前二條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第九十八條第二項ノ末尾ニ「此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得」ヲ加フ
第二百條ノ二 會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス

第二百一條中「二十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム
第二百三條 社債ノ募集ニ應ゼントスル者ハ社債申込證ニ通ニ其引受クヘキ社債ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス
社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號
二 第七十三條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事項
三 社債發行ノ價額又ハ其最低價額
四 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額
五 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債應募者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス
第二百三條ノ二 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セシメ社債募集ノ委託ヲ受ケタル者か自ラ社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ

第二百四條 社債ノ募集が完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク各社債ニ付キ其全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
第二百四條ノ二 社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百四條ノ三 取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
一 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項
二 各社債ニ付キ拂込ミタル金額

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項が外國ニ於テ生

外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項が外國ニ於テ生

シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス
第二百五條 債券ハ社債金額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

債券ニハ會社ノ商號及第百七十三條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ取締役之署名シ又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百六條中「譲渡」ヲ「移轉」ニ「譲受人」ヲ「取得者」ニ改ム

第二百七條ノ二 第百七十二條ノ二ノ規定ハ社債應募者又ハ社債權者ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第二百八條ニ左ノ一項ヲ加フ
定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第百五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百九條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項中「一個月ヲ下ラサル期間内」ヲ「二個月内」ニ改ム

但第百六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス

第二百十二條ノ二 會社カ其資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本増加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス

第二百十二條ノ三 株式申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號
二 増加スヘキ資本ノ總額
三 資本増加ノ決議ノ年月日
四 第一回拂込ノ金額

五 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨
六 前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項
七 優先株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
八 一定ノ時期マテニ資本増加ノ登記ヲ爲ササルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

數種ノ優先株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及ヒ各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十四條第一項第三號ヲ削除

第二百十五條 削除

第二百十七條中「其株主ノ權利」ヲ「其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十九條 第百二十六條第一項、第二項、第百二十六條ノ二乃至第百三十條、第百四十二條及ヒ第百四十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二 資本減少ノ爲メ株式ヲ併合スヘキ場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ提供セサルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但其期

間ハ三個月ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十條ノ三 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式ヲ競賣シ且株數ニ應シテ其代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百二十條ノ四 第百五十二條第三項及ヒ第百五十三條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五 株式併合ノ場合ニ於テ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ併合ニ因リテ株主カ受クヘキ株式及ヒ金錢ノ上ニ存在ス

第二百二十三條 削除

第二百二十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

第二百二十條ノ二乃至第百二十條ノ五ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五ノ規定ハ株式ヲ併合セサル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル質權ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條第二項ヲ削除

第二百二十七條ノ二 清算人ハ財産目錄、貸借對照表及ヒ事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ之ヲ覽査役ニ提出スルコトヲ要ス

第二百三十條第二項ヲ削除

第二百三十一條 削除

第二百三十二條 會社カ事業ニ著手シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及ヒ第百六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第百五十七條乃至第百六十六條ノ二、第百六十三條乃至第百六十三條ノ四、第百六十四條第二項、第百六十七條ノ二、第百七十條、第百七十一條、第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條、第百八十三條乃至第百八十七條、第百九十一條乃至第百九十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條中「第四號、第六號及ヒ第七號」ヲ「第四號乃至第六號」ニ改ム

第二百三十八條中「第四號」ヲ下ニ、「第五號」ヲ加フ

第二百四十二條中「第七號」ヲ「第六號」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 數人ノ無限責任社員カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第二百五十一條中「第二百二十七條第一項及ヒ第二百三十條第一項」ヲ「第二百二十七條、第二百二十七條ノ二及ヒ第二百三十條」ニ改ム

第二百五十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第八十三條ノ三ノ規定ハ前項

間ハ三個月ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十條ノ三 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式ヲ競賣シ且株數ニ應シテ其代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百二十條ノ四 第百五十二條第三項及ヒ第百五十三條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條 削除

第二百五十九條中「第五百五條第一項、」ノ下ニ「第二百五條第一項、」ヲ加

「株式、發行及ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡」ヲ「株券又ハ債券ノ發行及ヒ

其株式又ハ社債ノ移轉」ニ改ム

第二百六十一條 取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役又ハ

株式會社若クハ株式合資會社ノ清算人若クハ支配人カ、其任務ニ背キタ

ル行爲ヲ爲シ會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ

五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十一條ノ二 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社

員、監査役又ハ検査役カ會社ノ設立若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ

若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ裁判所又ハ總會ニ對シ左ニ掲ケタル事

項ニ付キ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ五年以下ノ懲役

若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於ケル株式總數ノ引受

二 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於ケル第二百二十九條ノ拂込

三 第二百二十二條第三號乃至第五號又ハ第二百十二條ノ二ニ掲ケタル

事項

第二百六十一條ノ三 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會

社ノ代表者、監査役、清算人又ハ検査役ハ左ノ場合ニ於テハ三年以下ノ懲

役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ付キ裁判所又ハ總會ニ對シ不實

ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ付キ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

三 會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ付キ會社ノ帳簿又ハ書類ニ記載

スヘキ事項ヲ記載セシ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 法令ノ規定ニ依リ會社ニ備ヘ置ケル帳簿又ハ書類ヲ本店又ハ支

店ニ備ヘ置カサルトキ

五 法令ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ、株券ニ第四百十八

條第二項ノ金額ヲ記載セシ若クハ其金額ニ付キ不正ノ記載ヲ爲シタ

ルトキ又ハ第五百五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト

爲シタルトキ

六 法令ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ債券ヲ發行シタルトキ

社債募集ノ委託アリタル場合ニ於テ受託者、受託會社ノ業務ヲ執行スル

社員、取締役又ハ受託外國會社ノ代表者カ前項第二號ニ掲ケタル行爲ヲ

爲シタルトキ亦同シ

第二百六十一條ノ四 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會

社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二年以下ノ懲役若ク

ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ
二 第一百七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ依リ破産宣告ノ

請求ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其請求ヲ爲サシメ會社財産ヲ處分シタ

ルトキ

三 検査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

四 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務

ノ引渡ヲ爲ササルトキ

五 清算ノ了了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不

當ニ定メタルトキ

六 一部ノ債權者ヲ利スル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間内ニ之ニ

辨濟ヲ爲シタルトキ

七 債權者ヲ害スル目的ヲ以テ第九十五條ノ規定ニ違反シ會社財産ヲ

分配シタルトキ

八 第二百六十條ノ規定ニ依リ裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

前項ノ行爲カ過失ニ出テタルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十一條ノ五 他人ノ株券ヲ使用シ其他詐欺ノ所爲ニ因リ議決權ヲ

行ヒ又ハ第九十九條ノ二、第二百六十條、第二百六十三條、第二百七十八條、第百

八十七條、第二百九十八條第一項若クハ第二百二十八條第二項ノ規定ニ依

ル株式引受人若クハ株主ノ權利ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁

錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役又ハ株式會

社若クハ株式合資會社ノ清算人若クハ支配人カ前項ノ行爲ヲ爲シ又ハ之

ニ加功シタルトキハ三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二百六十一條ノ六 議決權ノ行使ニ關シ不正ノ利益ヲ收受若クハ要求シ

又ハ之ヲ收受スルコトヲ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ

罰金ニ處ス

不正ノ利益ヲ交付若クハ提供シ又ハ之ヲ交付スルコトヲ約束シタル者亦

同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ

得

發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役又ハ株式會

社若クハ株式合資會社ノ清算人若クハ支配人カ第一項若クハ第二項ノ行

爲ヲ爲シ又ハ之ニ加功シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰

金ニ處ス

第二百六十一條ノ七 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社

員、監査役、株式會社若クハ株式合資會社ノ清算人若クハ支配人又ハ檢

査役カ職務ヲ執行ニ關シ不正ノ利益ヲ收受若クハ要求シ又ハ之ヲ收受ス

ルコトヲ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十一條ノ八 前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス若シ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百六十二條 發起人會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行為ニ付キ刑罰ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 官廳又ハ總會ニ對シテ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

四 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

五 本編ノ規定ニ依ル検査又ハ調査ヲ妨ケタルトキ

六 本編ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ召集セサリシトキ

七 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ

八 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

九 第九十四條ノ規定ニ違反シ準備金ヲ積立テサルトキ

十 株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十二 其他重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第二百六十二條ノ二 第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

第二百八十一條 削除

第二百八十一條中「金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券」ヲ「金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券」ニ改

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第二百八十四條中「債務者ノ所有物」ヲ「債務者所有ノ物又ハ有價證券」ニ改

第二百八十五條ノ二 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行為ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十二條中「署名スルコト」ヲ「署名シ又ハ記名、捺印スルコト」ニ改ム

第二百三十四條ノ二 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條ノ三 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

付キ運送品ノ引渡同一ノ效力ヲ有ス

第三百四十一條中「滅失又ハ毀損」ヲ「滅失、毀損又ハ延著」ニ改ム

第三百六十三條 削除

第三百六十五條 第三百三十四條ノ二及ヒ第三百三十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十七條ノ二 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ

第三百六十七條ノ三 質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四、第四百九十一條、第四百九十二條及ヒ第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

第三百七十四條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十七條中「報酬」ヲ「保管料」ニ改ム

第三百八十條第二項ヲ削除

第三百八十條ノ二 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應ジテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人之ヲ負擔ス

第三百八十條ノ三 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス

第三百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十一條 第二百八十六條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス

第三百七十條及ヒ第三百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉庫證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百九十八條 削除

第三百九十九條ノ二 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ヲ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又過失ニ因リテ之ヲ知ラザル

ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一個月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百九十九條ノ三 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノ其效力ヲ生ス保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セズ若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケサリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十七條中「保險金額支拂ノ義務」ノ下ニ「及ヒ保險料返還ノ義務」ヲ加フ

第四百二十八條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス

保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ

第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

第四百二十八條ノ三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定ムル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第四百二十八條ノ四 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事實ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條ノ二第二項及ヒ第三百九十九條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十條中「及ヒ其者ト被保險者トノ親族關係」ヲ削ル
第四百三十一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ
同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四百三十二條ノ二 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百三十三條中「第三百九十九條乃至第四百一條」ヲ「第三百九十九條、第四百條、第四百一條」ニ改メ「積立テタル金額」ノ下ニ「保險契約者ニ」ヲ加フ

第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前項ノ爲替手形ハ之ヲ無記名式ノモノト看做ス

第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定ムル爲替手形ニ之ヲ準用ス

第四百五十二條中「其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所」ヲ「支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地」ニ改ム

第四百五十二條ノ二 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

第四百五十三條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在地」ニ改ム

第四百六十三條中「質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコト」ヲ「取立ヲ委任スルコト」ニ改ム

第四百六十四條ノ二左ノ一項ヲ加フ
抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス

第四百七十二條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在地」ニ改ム

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當テハ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ

第四百八十八條ノ四 所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事

實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限リ其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス

第四百八十九條ノ二 支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス

第四百九十條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在地」ニ改ム

第四百九十一條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在地」ニ改ム

第四百九十四條中「住所」ヲ「營業所又ハ住所ノ所在地」ニ改ム

第四百九十六條 削除

第五百五條中「満期日又ハ其後二日」ヲ「支拂拒絶證書作成ノ期間内」ニ改ム

第五百七條中「第四百七十五條」ヲ「第四百七十六條」ニ改ム

第五百八條中「満期日又ハ其後二日」ヲ「支拂拒絶證書作成ノ期間内」ニ改ム

第五百十五條 拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 拒絶者及ヒ被拒絶者ノ氏名又ハ商號

二 拒絶者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絶者カ其請求ニ應セサリシコト、拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコト

官報號外

明治四十四年二月二十二日

衆議院議事速記録第十四號

商法中改正法律案

クハ其贖本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ五 爲替手形、複本、原本又ハ爲替手形若クハ其贖本ノ寫本ニ依リテ拒絶證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作リタルトキハ其贖本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス

一 手形金額

二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日

四 満期日及ヒ支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號

第五百二十六條ノ二 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

第五百二十九條中「第四百五十七條、第四百五十九條乃至」ヲ削ル

第五百三十一條 削除

第五百三十三條中「一週間」ヲ「十日」ニ改ム

第五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス

支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第五百三十四條 削除

第五百三十四條中「前條第一項ニ定メタル期間」ヲ「呈示期間」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ヲ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第五百三十六條 振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第五百四十一條中「讓渡」ヲ「移轉」ニ改ム

第五百四十四條ノ二 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百四十五條中「前條」ヲ「第五百四十四條」ニ改ム

第五百六十八條中「船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用」ヲ「船舶ノ修繕費、救助料」ニ改ム

第五百九十九條中「救援」ヲ削ル

第六百六條中「立替金」ノ下ニ「碇泊料」ヲ加ヘ「救援」ヲ削ル

第六百二十二條中「又ハ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコトヲ削ル

第六百二十九條 第三百二十四條乃至第三百三十五條及ヒ第三百四十四條

二四五

ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス
第六百四十九條中「救助ノ費用」ヲ「救助料」ニ改ム
第五編中第四章ノ次ニ左ノ一章ヲ加ヘ「第五章」ヲ「第六章」ニ「第六章」ヲ「第七章」ニ改ム

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス
先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス
人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ルハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得
船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得
船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ之ニ從事シタルトキ

三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ
第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス
第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ
第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六百八十條中「救援並ニ救助ノ費用」ヲ「救助料」ニ改ム

附則
第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス
第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五條 第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴訟ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス
第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス但定款ニ取締役カ有スヘキ株式ノ數ヲ記載セザリシトキハ取締役ハ株式引受人又ハ株主ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第二百六十六條ノ二及ヒ第四百二十二條ノ二乃至第四百二十二條ノ四ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
第八條 本法施行前ニ株式會社ヲ設立シ又ハ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ株式ノ金額カ第四百四十五條第二項ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得本法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ本法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス
第九條 第五百二十二條第三項及ヒ第五百三十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第五百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 第六百六十三條及ヒ第六百六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第十一條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六百六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴

ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス
第十二條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス
第六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効
ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス
第十三條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ
監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第十四條 第七十七條及ヒ第八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタ
ル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適
用ス
第十五條 本法施行前ノ最終ノ財産目録ニ掲ケタル財産ニ附シタル價額ハ
第九十條ノ二ノ規定ニ適用ニ付テハ之ヲ其取得價額又ハ製作價額ト
看做ス但取得價額又ハ製作價額カ其價額ニ超ユルトキハ此限ニ在ラス
第十六條 本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但社債募集ノ公告ヲ爲
ササルトキハ第二百二條、第二百三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七
條ノ二ノ規定ヲ適用ス
第十七條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得
第十八條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ
資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反
スルトキハ此限ニ在ラス
第十九條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓
未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス
第二十條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株
主ハ其記名株式ヲ讓渡スコトヲ得
第二十一條 附則第十八條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合
ニモ亦之ヲ適用ス
第二十二條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場
合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリトキハ設立無効ノ主張ニ付
テハ本法ノ規定ヲ適用ス
第二十三條 附則第十條、第十一條、第十三條及ヒ第十四條ノ規定ハ株式會
社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十四條 附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第二十五條 前十八條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第二十六條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行為アリ
タルトキハ本法施行後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第二十七條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條
ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ
本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第二十八條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟
ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ

月本法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ
タルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル
場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
於テハ其償還ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ
月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス
第二十九條 第三百六十七條ノ三、第三百八十條ノ二及ヒ第三百八十條ノ
三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス
但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス
第三十條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義
務ニ付キ其施行後ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス
本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年
ヨリ長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス
前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ準用ス
第三十一條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前
ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用ス
第三十二條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶
證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス
本法施行後ニ擔保ヲ供セザル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ
第三十三條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ
四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ
付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之
ヲ適用ス
第三十四條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條第一項
ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ
作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス
第三十五條 前二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス
第三十六條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル
小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
附則第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス
第三十七條 本法施行前ニ小切手ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行為ア
リタルトキハ本法施行後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第三十八條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基
キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス
第三十九條 明治三十三年法律第十七號ハ之ヲ廢止ス

商法施行法中改正法律案

第六十條第二項ヲ左ノ如ク改ム
取締役カ前項ノ規定ニ違反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ三年
以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ行為カ過失ニ出タルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

非訟事件手續法中改正法律案

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

目録中「會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任」ヲ「會社ノ清算ニ關スル事件」ニ、「未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記」ヲ「未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記」ニ改ム
第二百二十五條中「第五百十一條」ヲ「第五百十條、第五百十條ノ三乃至第五百十一條ノ五」ニ改ム

第二百二十九條ノ二第二項ヲ削ル

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ
登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ登記スヘシ

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

第三百二十八條ノ二 第三百二十九條ノ三及ヒ第三百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ三 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ裁判所カ前項ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス
呼出及ヒ裁判所ノ費用亦同シ

第三百三十八條ノ四 第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ準用ス

第四百四十條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 法定代理人登記簿
第四百十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五百十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第五百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一個月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第五百五十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第五百五十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

第五百五十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク登記ヲ抹消スヘシ

第六百六十四條 第五百五十一條ノ二乃至第五百五十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十五條 削除

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記
第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム
會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二項中「且之ニ支配人ノ選任」ヲ「支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項」ニ改ム

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條中「其選任」ノ下ニ「及ヒ商法第九十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項」ヲ加フ

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現在清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條ノ二 合名會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第七十九條第二項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條ノ三 合名會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百七十九條第二項並ニ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十四條第三項ヲ削ル
第百八十四條ノ二 第百八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ合名會社ノ設立取消ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ三 第百八十二條ノ規定ハ合名會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ四 商法第八十三條ノ三又ハ第八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス
有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條 商法第百十八條第二項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十五條ノ二 第百七十九條第二項及ヒ前條ノ規定ハ商法第百十八條ノ二ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第百八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百八十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム
申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款
二 株式ノ引受ヲ證スル書面

三 株式申込證
四 取締役及ヒ監査役又ハ検査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類

五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七 創立總會ノ決議錄
第百八十八條第二項中「裁判所ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其裁判ノ謄本」ヲ削リ第三項中「變更ノ登記ハ」ノ下ニ「會社ヲ代表スヘキ」ヲ加フ

第百八十九條中第一號及ヒ第二號ヲ左ノ如ク改ム
一 株式ノ引受ヲ證スル書面

二 株式申込證
第百九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一 最終ノ貸借對照表

二 社債ノ引受ヲ證スル書面
三 社債申込證
四 各社債ニ付キ商法第二百四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄
第百九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第百九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項並ニ第百八十九條第三號第四號ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當並ニ引受ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項並ニ第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十四條 削除
第百九十五條 資本ノ増加並ニ減少、解散及ヒ合併ニ因ル變更並ニ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百九十五條ノ二 第百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第百六十三條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第百九十八條 第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ第百九十一條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
第百九十八條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第百九十九條 第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十九條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議錄及ヒ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百一百條第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削リ第四項中「前三項」ヲ「前二項」ニ改ム

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百一百條ノ二 第百九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス
第百一百六條中「第百六十一條」、「第五百二十六條」、「第六十條第二項、」及ヒ「第九十五條第三項」ヲ削ル

附則
本法ハ商法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

商法中改正法律附則ノ規定ニ依リ舊法ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍ホ其效力ヲ有ス

後見人登記簿ハ法定代理人登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有シ營利ヲ目的トスル社團法人ノ登記簿ハ其法人ノ種類ニ從ヒ合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿又ハ株式合資會社登記簿ノ一部トシテ其效力ヲ有ス

(司法大臣子爵岡部長職君登壇)

○司法大臣(子爵岡部長職君) 唯今議題ニ供セラレタコトノ商法中改正法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ述べマス、商法ノ改正ハ數年來其必要ヲ感シテ居ル次第アリマシテ、當事者間ニモ之ヲ稱ヘラレ、又當局者ニ於テ實業界、辯護士團並ニ諸官衙ノ意見ヲ聴キマシテ、商法中改正ヲ要スル點ハ隨分多クアルコトヲ認メマシタ次第アリマス、而シテ其改正ノ一日モ弛ウスベカラザル急務ナルコトヲ見テ、茲ニ本案ヲ提出致シマシタ譯デアリマス、本改正案ニ包含スルコトノ條數ハ二百餘條ニ涉リ居リマス、是レ皆商法ノ規定ノ不備ヲ補ヒ、又不當ナル點ヲ改メ、又一面ニハ解釋上ノ疑義ヲ明カニシ尙商事ノ便宜ヲ計ルト同時ニ、一ハ當業者殊ニ會社ノ營業ニ當ルモノ、責任ヲ嚴明ナラシメントスルコトヲ期シテ居リマス、本案ニ對シテ貴族院ニ於テハ修正ノ條數ガ二十四箇條ニ及ビマシタ、併シ是何レモ政府ガ本案ヲ提出致シマシタルコトノ理由ト其趣旨ニ於キマシテハ別ニ背馳スルコトハナカッタデアリマシテ、政府ハ貴族院ノ修正ニ對シマシテハ大體ニ於テ之ニ同意ヲ表シマシタ次第デアリマス、幸ニ本案通過致シテ法律案トシテ發布サレ、實施サレマシタ上ハ商取引ニ多大ノ便利ヲ與ヘマスコトヲ得マセウト信ズル、又商事ノ營業ニ儼然タル秩序ヲ保ツコトモ得ラレマセウト確信致シマスル次第デアリマス、本家中ニ規定シテ居リマスルコトノ詳細ノ事項ニ至リマシテハ別ニ特別委員會ニ於キマシテ説明致シマスル積リデアリマス、諸君ニ於ケレマシテハ十分ニ御審議下サレテ速ニ協賛アラント希望シマス、次ニ商法施行法中改正法律案提出ノ理由ヲ述べマス、商法中ニアル會社ニ關スル罰則ノ改正ニ伴ヒマシテ之ト權衡ヲ得セシムルタメニ商法施行法第六十條第一項ニ違反シタル場合ニ於テ取締役ニ刑罰科スルノ必要ヲ認メマシテ本案ヲ共ニ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ非訟事件手續法中改正法律案ニ付キマシテハ、商法ノ改正ニ伴ヒマシテ非訟事件手續法中改正ヲ要スル事項ガアリマシテ、而シテ其規定ノ事項ハ殊ニ商法登記ノ手續ニ關スルデアリマス、右申述ベタルトコロハ提出ノ理由ノ概要デアリマス、ドウカ十分ニ御審議アラント希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 此三ツノ法案ニ對シテ説明ヲ求ムル發言ノ通告ガアリマスカラ、先ヅ其順ニ發言ヲ許サウト思ヒマス——長島鷲太郎君

(長島鷲太郎君登壇)

(拍手起ル)

○長島鷲太郎君 本員ガ司法大臣ニ此法案ノ提出ニ付テ説明ヲ求メマスル點ハ極メテ簡單デアリマス、第一ニ私ガ司法大臣ニ御説明ヲ願ヒタイノハ、司法大臣ガ本案改正ハ數年來ノ希望デアルト御述べニナリマシタガ、成程司法大臣ガ大臣ノ御職ニ御就キニナッタノハ數年デゴザイマセウガ、此商法ニ付テノ改正ノ希望ハ數年デハナイノデアリマス、現行商法ガ公布ニナリマシテカラ今日マデ約二十年、現行商法ノ公布ニナリマシタ當時既ニ此商法ニ付テノ改正ノ希望ハ度々アッタデアリマスガ、實業家ハ勿論ノコト、法律ニ從事シテ居ル者ト雖モ、度々此改正ノ希望ヲ持テ居ッタデアリマス、又商法ノ一部ノ改正ニ付テハ度々本議會ニ現ハレタデアリマス、然ルニ常ニ政府ハ追テ商法全部ノ改正ガアルカラ其時マデ待テ呉レト云フコトニ於テ今日マデ延々ニナッテ居ッタデアリマス、不都合ハ幾ラモ現行商法ノ規定ノ中ニゴザイマスケレドモ、今日マデ國

民ハ之ヲ耐忍シテ參ッタデアリマス、而シテ今同改正案ヲ見マスル吾々ハ政府ノ改正案トシテ提出セラレタル以外ニ於テモ、尙幾ラモ吾々ハ改正スベキ點ガアルト信ズルデアリマス、又政府ガ改正案トシテ提出セラレタルモノ、中ニ於テモ、如何ハシキ規定ガ隨分アルデアリマス、當業者ハ勿論、法律家ノ間ニ於テモ此改正案ガ世間ニ發表セラレ、ヤ否ヤ、種々ナル議論ヲ提出スル者ガアルデアリマス、政府ノ度々言明セラレタ如ク、此商法ノ總改正案ガ一たび議ラセラレタル後ニ於キマシテハ、又不都合ノ點ヲ發見致シマシテモ、急ニ之ヲ改正セラレナイコトハ政府ノ度々言明セラレタルコトニ依テ明白デアルト信ズルデアリマス、シテ見マスルト此商法ノ改正案ニ付キマシテハ審查調查ト申シマスルモノハ極メテ鄭重ニナサンケレバナラヌト思ヒマス、就デ私ガ司法大臣ニ伺ヒタイノハ政府ハ此改正案ヲ吾々ニ調査セシムルニ當ッテ適當ノ時ヲ藉ダケノ雅量ガ無いデアラカドウカ、又此商法ノ此度ノ改正案ト云フモノハ是非本議會ニ於テ之ヲ議ラシナケレバナラヌ必要ガアルカドウカ、此事ヲ私ハ第一ニ伺ヒタイノデアリマス、第二ニハ此商法ノ改正案ノ提出ニ付テ特ニ私ハ司法大臣ニ伺ハナケレバナラヌ、否ナ司法大臣ノミナラズ政府ノ各大臣ニ伺ハナケレバナラヌコトガアルデアリマス、一體我國ニ於テハ何事モ軍事ナル、軍事デナケレバ夜ノ明ケヌ國デアアル、其軍事デナケレバ夜ノ明ケヌ我國ニ於テ此平和的大法典ヲ提出サレマシタノハ吾々ハ喜ブトコロデアリマス、其内容ノ如何ハ措指イテ、吾々ハ大ニ喜ブトコロデアアル、併ナガラ私ハ遺憾ニ存ズルノハ免レ角此大法典、國民ノ守ルベキトコロノ大法典ヲ提出ニ當ッテ此席ニ列セラレテ居ルトコロノモノハ僅ニ司法大臣及農商務大臣ノ二大臣ノミデアアル、苟モ一國ノ國民ノ守ルベキトコロノ大法典ヲ提出スルニ當ッテ其他ノ大臣ガ列席セラレナイト云フノハ、是ハ如何ナル理由デアリマスルカ、如何ニ我内閣ガ軍事施設ニ汲々シテ居ルトハ云ヒナガラ、此大法典ヲ國民ニ示スニ當ッテ、内閣諸公ノ總テ御出席ガナイト云フコトハ私ハ甚ダ遺憾ニ存ズルデアリマス(ヒヤク)ト呼フ者アリ、此點ニ付テ私ハ特ニ政府ニ伺ヒタイノハ政府ハ此大法典ヲ提出ニ當ッテ誠心誠意通過ヲ圖ラレレ御目的デアラカドウカト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス、第三ニ私ノ伺ヒタイノハ此改正ノ商法ヲ昨年併合セラレタルコトノ帝國ノ新領土ニ施行スルコトノ御意思ガアルヤ否ヤト云フコトヲ質問シタイノデアアル、外國ノ事例ヲ見マシテモ殊ニ佛國ノ如キハ北ハ北海ニ面シ、南ハ地中海ニ面シテ、北ト南ト習慣ヲ異ニシテ居ッタ彼ノ佛國ニ於テモ、宰相「コルベル」ガ商事ニ關スル法律ヲ編纂シタノガ、佛國ノ法律ノ統一ノ原因トナッテ居ルトデアリマス、獨逸ニ於テモ同ジコトデアアル、獨逸帝國ノ成立前ニ於テ聯邦ガ相對峙シテ居ルトキニ於テモ爲替法トカ商法デアルト云フモノハ先ヅ施行サレタデアアル、而シテ獨逸帝國ガ成立シ、彼ノ佛蘭西ヨリ「アルサス、ローレン」ヲ得ルニ及ンデハ獨逸ノ法律ト云フモノヲ彼ノ新領土ニ行シタデアリマス、苟モ此新ニ領土ヲ併合シタルトキニ於テ、恰モ此商法ノ改正案ヲ提出セラレタル時期ニ於テ、爲政治家ハ當ニ軍事施設ノミヲ以テ併合ノ實績ヲ擧ゲルト云フコトヲ考ヘルノミナラズ、平和的手段ヲ以テ法律ヲ統一シ、而シテ併合ノ好成績ヲ得ルト云フコトニ考ヘボサナケレバナラヌト私ハ信ズルデアリマス、然ルニ此商法ノ改正案ヲ出スニ付テ、此法律ガ新領土ニ及ブヤ否ヤト云フコトニ付テ未ダ政府ノ御所存アルコトヲ聽カナイノハ、私ハ甚ダ遺憾ニ存ズルデアリマス、現内閣ハ外國ノ事情ニ通セラレテ居ル、而モ獨逸ノ國勢ニ通セラレテ居ル方ミヲ以テ組織サレタルデアリマス、其方ミガ此點ニ御考慮ヲ費サレナカッタノヲ私ハ甚ダ遺憾ニ存ズルコトデアリマス、官ニ私ハ例ヲ外國ノ事例ニ求メナイノデアリマス、我國ニ於テモ、法典ノ歴史ヲ回顧致シマスト云フト、民法ノ制定ガナクモ、手形條例デアリマストカ、商法デアルト云フモノハ法典ノ前驅ヲ爲シテ適用サレタ

ノデアリマス、明治十五年ニハ爲替手形、約束手形條例が公布ニナツテ、他ノ法律ハ我國ニ布カレナイテ居リマシタケレドモ、先以テ爲替手形、約束手形ニ付テノ法律ト云フモノヲ國民一般ニ適用ニナツタデアリマス、明治二十六年ニ於テハドウデアルカ、未ダ商法ノ全部及民法ノ全部ハ公布セラレヌデアリマシタケレドモ、商法ノ中ノ一部、手形ニ關スルコロノ法律、會社ニ關スルコロノ法律、及破産ニ關スルコロノ法律ト云フモノハ適用サレタデアリマス、政府當局或ハ言ハレデアリマセウ、新領土ニ於テハソレノ習慣ガアルカラシテ法典編纂ニ今ヤ著手シテ居ル、斯ウ云ウ辭柄ヲ以テ私ノ質問ニ答ヘラル、カ知リマセヌ、併ナガラ民法デアリマス、刑法デアルトカ云フモノナラバ、其國ノ人情風俗ト云フモノヲ參酌シテ制定スル必要ガゴザイマス、ケレドモ商事ニ關スル規定ト云フモノニ付テハ左様ナヌハナイデアアル、況ヤ我帝國ノ新領土ノ關係ヲ密接ナラシムベキ必要ナル今日ニ於テハ、此商事ニ關スルコロノ法律ト云フモノハ第一著新領土ニ適用シナケレバナラヌト云フコトハ是ハ明白ナ事柄デアリマス故ニ、私ハ政府當局ニ問ヒタイデアリマス、政府ハ此改正ノ商法案ヲシテ他ノ法律ニ先ツテ新領土ニ適用スルノ御意思ガアルカドウカ、假ニ此商法ノ全體ト云フモノヲ適用致サヌトシタコロガ、曾テ我國ニ於テ事例ヲ示シタ如ク、此商法ノ中ノ一部、或ハ手形ニ關スルモノデアルトカ、或ハ會社ニ關スルモノデアルトカ、或ハ破産ニ關スル規定デアルトカ云フモノヲ先以テ新領土ニ適用スベキトコロノ實施スルコロノ御所存ガアルカドウカ、是ガ私ノ内閣諸公ニ問ヒタイトコロノ第三ノ質問デゴザイマス

〔司法大臣子爵岡部長職君登壇〕

○司法大臣(子爵岡部長職君) 唯今長島君カラノ質問ガアリマシタニ付テ御答シマス、長島君ノ御質問ノ趣意ハ、第一ノ御質問ハ、本案ヲ此度提出致シマシタニ付テハ、政府ハ此會期ニ速ニ通過ヲ求ムルデアアルカト云フ要領デアッタ存ジマス、本案ヲ政府ニ於キマシテ調査致シマシタノハ、餘程長クノ歲月ヲ經テ調査ヲ重ネマシタ譯デアリマス、而シテ漸ク此際議會ニ提出ヲ致シマシタニ付テハ修正可決セラレテ、本日本院ノ議ニ上リマシタ譯デアリマス、政府ニ於テハ本案ノ調査ニ付テハ最モ慎重ナル取調ヲ遂ゲマシテ、今日ニ至リマシタ譯デアリマス、無論政府ハ本院ノ諸君ニ於カレテ十分ナル審査ヲ遂ゲラレタル上ニ速ニ協賛ヲ與ヘラレシコトヲ切ニ希望シテ居ル譯デアリマス、又改正ニナリマシタコロノ改正商法ハ、新領土ニ直ニ行ハレルモノデアアルカ如何ト云フ御尋ニ對シマシテハ、是ハ唯今本官カラ御答ヲ致シマスコトハ控ヘテ置キマス

〔何故ニト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 高木益太郎君

○高木益太郎君 本員ハヤハリ、政府ニ對シテ商法改正案ノ提出方ニ付テ、説明ヲ求メタイコトガアリマス

〔登壇々々ト呼フ者アリ〕

○高木益太郎君登壇

〔拍手起ル〕

○高木益太郎君 唯今閣部司法大臣ノ説明ニ依リマシタ商法典ノ改正ハ、二百有餘條ニ及ンデ居ルガ、貴族院ハ茲ニ二十何箇條ノ修正ヲシタト云ハレケレドモ、本員ノ配付ヲ受ケタコロノ修正案ヲ讀シテ見ルト字句ノ改正ハ免三角、大體ノ趣意ノ改正ハ、僅カニ二點ニ止ツテ居ルデアリマス、是ニ付キマシテ本員ハ一點、柱内閣ノ諸公ニ向テ説明ヲ求メタイコトガアル、ソレハ政府當局者ガ商法改正案ヲ先ツ、衆議院ノ議

ニ付セズシテ、之ヲ貴族院ノ議ニ付シタル事情ハ如何ナル次第デアアルカ(ヒヤ／＼)ト呼フ者アリ)此一點デアリマス、本員ハ固ヨリ衆議院ノ先議權ヲ主張スル次第ハナイデアリマス、併ナガラ之ヲ内ニ省ミレバ、我衆議院ハ第二十五、第二十六議會ニ於テ吾々ノ尊敬スルコロノ同僚ヨリシテ、或ハ商事會社法改正案ノ提出アリシガ如キ、又或ハ株式會社合併ニ關スル法案ノ通過アリシガ如キ(拍手起ル)事實モアルデアアル、又之ヲ外ニ顧ミレバ商業會議所、銀行集會所、其他民間ノ有力ナル各團體カラシテ、社會ノ實際狀態ニ鑑ミテ、商法典改正ノ必要ヲ訴ヘタト云フコトハ爭フベカラザル事實デアアル、唯今岡部司法大臣ハ、豫テ國事ニ付テハ常ニ寢食ヲ忘ル、ト云フコトヲ自稱セラレテ居テ(笑聲起ル)而モ此案ト云フモノハ商取引ノ便利ト、實業上ノ敏活ヲ計ルタメニ出シタモノデアルト云フコトヲ言ハレタ、果シテ其ノ精神デアッタナラバ、此法典改正ヲ訴ヘタル趣意ハ右等ノ事情ニ依ツテ彼此參酌シテ民間ニ於ケル實際上ノ必要カラシテ、之ヲ編纂セラレタコトデアレバ、道理上、又順序上、先ツ國民ノ利害痛痒ニ最モ直接關係ノ深イ衆議院ノ議ニ付シテ、所謂民心ノ歸嚮スルコロハ何處デアルト云フコトヲバ、能ク調査シテ、サウシテ其修正スベキハ修正シ、加除スベキハ加除スル、是ニ於テ第一案ノ成ルノガ當然デアラウト私ハ信ジマス、サスレバ第一ニハ貴族院ノ諸公ニ於テモ先ツ商法ノ改正案ニ於テ實際ニ適切ナルコロノ審議ヲ下スコトガ出來マスルシ、又第二ニハ貴族院、衆議院兩院ノ意見ガ相齟齬シ、杆格スルト云フヤウナコトヲ防グコトノ出來ル便利ガアルデアリマス、是ハ當局者ガ親切ナル當局者ガ將ニ務ムベキ當然ナル注意デアアルト、本員ハ信ジテ居リマス、當局者ノ措置茲ニ出デズシテ居ルト云フコトハ何故デアアルカ、昔カラノ謬ニ商賣ニ迂遠ナルコトヲ嘲ツテ士族ノ商法ト云ツテ居ルデアアル、士族ニ於テ然リ、況ヤ大名ニ於テオヤ(拍手起ル)民間ノ事情ニ遠ザカリ、經濟社會、利殖社會ノ煩累ヲ厭フト云フヤウナ方々ガ多イ貴族院ニ向ツテ、此實際ノ生活社會ニ關係ノ多イ商法ノ審議ヲ第一ニ任スト云フコトハ、政府ハ如何ナル考ヲ以テ此ノ如キ措置ヲ執ツタデアアルカ、吾々ハ此商法ハ是非完全ニシタイ、眞面目ニ改正ヲシタイト云フ考ヲ持ツテ居ルデアアルガ、是ハ確ニ商法改正ノ上ニ於テ一大損失デアアルト思ヒマスカラ、私ノ質問ノ點ニ付テ十分親切ナル當局大臣ノ説明ヲ求メタイデアリマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 岡部司法大臣

〔司法大臣子爵岡部長職君登壇〕

○司法大臣(子爵岡部長職君) 高木君ノ御尋ニ簡單ニ御答ヲ致シマス、政府ニ於テハ都合ニ依リマシテ貴族院ニ先ニ提出致シマシタデアリマス(高木益太郎君其都合トハ如何ト呼フ)初メ議會ノ開會ノ頃ハ即チ大案タルコロノ豫算案ヲ衆議院ノ方ニ提出セラレタ譯デアリマス、貴族院ノ方ニハ此法案ヲ差出スノヲ以テ(高聲ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)宜シキヲ得タルモノト信ジテ出シタデアリマス、其他ニ何モ意味ハゴザイマセヌ

〔高木益太郎君其理由如何ト呼フ〕

○議長(長谷場純孝君) 松田源治君

○松田源治君 本員モ司法大臣ニ説明ヲ求メタイデアリマス(登壇々々ト呼フ者アリ)登壇ヲスル必要ハアリマセヌ、商法改正ノ中ノ詳細ナルコトハ委員諸氏カラ委員會ニ於テ質問ガアルコト、存ジマスケレドモ、商法ノ根本主義ヲ變ヘタルコトガ一ツアルデアリマス、他ニモアルカ知リマセヌケレドモ、最モ注意シナケレバナラヌコロノ會社ノ罰則規定、五年以下ノ懲役ニ處スト云フ——取締役、監査役或ハ清算人トカ支配人トカ云フモノヲ五年以下ノ懲役ニ處スルト云フガ如キ、嚴罰ノ規定ヲ商法ニ設ケタデアアル、今

日マデノ商法ハ刑事罰ノ規定シテ居ラヌデアリマス、商法違反トカ、所謂商事罰、過料、アヤマチ料ト云フモノヲ取締役、監査役、支配人ト云フヤウナモノニ科シテ居ルデアリマス、其他ノコトハ總て刑法ノ制裁ニ任シテアルデアリマス、然ルニ政府ハ今回其規定ニ根本的ノ革新ヲ加ヘテ、五年以下ノ懲役或ハ二年以下ノ懲役、會社ノ業務又ハ會社ノ財産狀況ニ付キ裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ、又ハ事實ヲ隱蔽シタル如キニ對シテモ、三年以下ノ懲役ニ處ス、又過失ニ出タルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス、云フコトニナッテ居ル、故意テナク過失ニ出タル場合ニ於テ、三千圓以下ノ罰金ト云フ大ナル刑法罰、罰金刑ヲ科シテ居ル、其他刑罰ノ規定ヲ設ケマシテ、重役ノ制裁ニ關スル嚴重ナル規定ヲ設ケタノハ如何ナル理由ニ基クデアリマスカ、是ハ國ノ立法例等ニモアルト云フコトデ、外國ノ立法例ニ模サレタノデアリマス、外國ノ立法例ニ模スルナラバ、英國ニ於ケル千八百六十一年ノ竊盜條例ニモ似寄ッテ規定ガアルト申シマス、現行商法ヨリスツト以前ノ竊盜條例デアリマス、現行商法ノ中ニモ規定シテ差支ナイモノデアル、然ルニ現行ノ商法ニ之ヲ規定セズシテ、今回突然トシテ重役ノ體刑及多額ナル罰金刑ヲ過失罪ニモ是ガ制裁ヲ與ヘルト云フ規定ヲ設ケラレタノハ、商法ノ今日マデ執テ居ル主義ヲ根本的カラ覆ヘシ、實業社會ニ不安ノ念ヲ與ヘ、日本ノ實業ノ作振ヲ或ハ阻害シハシマイカト吾々ハ考ヘル、司法省ニ向ッテハ、毎年警告ヲ與ヘテ居ル、監獄ニ入レル在監人ノ數ヲ殖ヤスカライカスト云ウテ監獄費ヲ昨年モ削リ、今年モ削ッテ、警告ヲ與ヘテ居ル、然ルニ何ヲ苦シデ犯罪人ヲ出ス、嚴重ナル罰則ヲ新ニ商法ニ規定セラレタルハ如何ナル理由ニ基クデアリマス、是ハ「第二者ノ利害ヲ圖リ又ハ本人ノ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲナシ本人ノ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキ五年以下ノ懲役ニ處ス」ト云フ此規定デ以テ澤山デアル、然ルニ事實是ヨリスツト輕イ過失罪マデモ罰シテ、之ヲ擴張スルト云フコトハ如何ナル理由ニ基キテ居リマス、司法大臣ハ此商法ハ當事者ニ大ニ便宜ヲ與ヘ、秩序アル健全ナル實業ノ發達ヲ促スト云フコトヲ言ハレマシタケレドモ、斯ル重罰ヲ科シ、斯ル苛法嚴法ヲ設ケテ重役ヲ取締ルト云フコトデアッタナラバ、却テ實業社會ハ不秩序トナッテ、健全ノ發達ハ出來ナイト考ヘルデアリマス、法律ノ格言ニモ「法律ヲ以テ人ヲ正直タラシムベカラズ」ト云フコトガアル、斯ル苛法ヲ設ケテ人ヲ正直ニナサシムルト云フコトハ思ハザルノ甚シキモノト考ヘル、是ハ自然ノ趨勢ニ從ッテ健全ナル實業社會ノ發展ヲ待ツヨリ外ニ仕方ガナイデアル、政府ハ唯外國ノ立法例ニ模シタト云フデアルカ、又ハ日糖事件トカ水産事件ガ起リテ、ツレニ驚イテ周章狼狽シテ此規定ヲ設ケタノデアルカ、是ハ商法ノ中ノ最も重大ナル今日マデノ主義ニ根本的ノ改革ヲ加ヘル條文デアリマス、大問題ト考ヘマス、司法大臣ハ本會ニ於テ詳細ニ現行商法ノ主義ヲ改メタル理由ヲ説明セラレンコトヲ望ミマス

○司法大臣(子爵岡部長職君) 唯今松田君カラ質問デアリマシタ、此席ヨリ簡單ニ御答致シマス(松田源治君 詳細ニ望ミマス)ト呼フ、唯今提出ノ理由ヲ述ベマシタ際ニモ申置キマシタ通り、政府ニ於キマシテハ本案ノ極メテ慎重ニ調査致シマシテ唯今質問サレマシタトコロノ事項ニ付テモ十分ナル考慮ヲ盡シマシタ末、今般改正ヲ致スニ付テ此條項ヲ加ヘマスルコトヲ必要ト認メタノデアリマス、ツレニ付テ又詳細ナル御尋ガアリマスレバツレハ特別委員會ヲ精シク述ベマシタ方ガ御互ニ便利ト思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) ドウデゴザイマス、日程ノ第四、第六、第八、即チ右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ一括シテ議題ニ供シタイと思ヒマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 三案トモ關聯シ重大ナル案件ト思ヒマス、議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 日程第三第五第七ノ議案ハ一括シテ議長指名ノ特別委員二十七名ニ付託ト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス——日程第九不動產登記法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第九 不動產登記法中改正法律案(政府提出貴族院 第一讀會 送付)

不動產登記法中改正法律案

不動產登記法中左ノ通改正ス

第二百二條ノ二 既登記ノ不動產ヲ世傳御料ニ編入シタル場合ニ於テ其登記ノ抹消ノ囑託アリタルトキハ登記用紙中表示欄ニ世傳御料ニ編入シタル旨ヲ記載シ不動產ノ表示、表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二百三條ノ二 不動產ニ付キ遺留財產ノ設定又ハ增加ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財產ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第四百二十二條ノ二 遺留財產ノ廢止ノ勅許アリタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク遺留財產ノ設定ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス遺留財產ノ相續人ナキトキ亦同シ

附則

本法ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(司法大臣子爵岡部長職君登壇)

○司法大臣(子爵岡部長職君) 本案ハ誠ニ簡單ナルモノデアリマス、皇室財產令ニ依リマシテ世傳御料及遺留財產ノ制ガ定マリマシタニ付キマシテ、條例中世傳御料ニ編入セラレタル不動產ニシテ登記アルモノハ宮内大臣ヨリ其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル旨ヲ提出致シテ以テ不動產登記法中其抹消手續ヲ定ムルノ必要ヲ認メタノデアリマス、又遺留財產ハ皇族ノ世襲ニ屬スル財產ニシテ他人ニ於テ之ヲ取得スルコトヲ得ザルヲ以テ華族世襲財產ノ例ニ倣ヒ此登記手續ヲ規定スルノ必要ヲ認メタノデアリマス、是ハ誠ニ簡單ナル案デアリマシテ説明ハ唯今申ス通りデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質問モナイト思ヒマス、カラ日程第十、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルコトヲ望ミマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名ノ特別委員九名ニ付託スルト云フニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通りニ決シマス——日程第十一、礦業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第十一 礦業法中改正法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會

礦業法中改正法律案

第十一條中「礦業ヲ爲シ又ハ礦業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス」ヲ「礦業ヲ爲スコトヲ得ス」ニ改ム

第十四條ノ二 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ礦山監督署長ニ委任スルコトヲ得

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存續期間滿了後十日以内ニ同種ノ礦物ニ付更ニ礦業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘權區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ礦物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ礦業權者ト看做ス

第三十四條中「前條」ヲ「第三十三條」ニ改ム

第三十六條 礦業權者ハ鄰接礦區ノ礦業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ礦區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

礦床ノ位置形狀ニ依リ鄰接礦區ニ掘進スルニ非サレハ礦利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ礦業權者ノ承諾ヲ得テ礦區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ礦業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ礦區圖ノ外礦床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ礦床圖ハ之ヲ礦區圖ノ一部ト看做ス

第八十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

自己ノ掘採シタル礦物ト他人ヨリ取得シタル礦物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得礦物ヨリ製出シタル礦產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得礦物ノ數量カ自己ノ掘採シタル礦物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル礦產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(農商務大臣男爵大浦兼武君登壇)

○農商務大臣(男爵大浦兼武君) 唯今議題ニナリマシタコロノ礦業法ハ明治三十八年ニ發布セラレタルモノデゴザイマス、其後今日マデ實行シ來リタルモノデゴザイマス所ガ近時礦業ノ發達進步ニ伴ヒマシテ、誠ニ不備ノ點ガ尠カラズノデ成ルベク礦業界ノ便利ヲ圖ルト同時ニ事務ノ簡捷ニ最モ注意シナケレバナラズタメニ改正ヲ要スルモノデゴザイマス固ヨリ簡單ナ法律デハゴザイマスカラシテ、速ニ御協賛ヲ願ヒタイノデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマスカラ日程第十二、右讀案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十二 右讀案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名特別委員九名ニ付託ト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、——日程第十三及第十五ハ朝鮮ニ關スル議案ナルニ依リ、一括シテ議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ明治四十年法律第四十八號中改正法律案、明治四十年法律第四十九號中改正法律案ヲ一括シテ議題ニ致シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス——政府委員

第十三 明治四十年法律第四十八號中改正法律案 第一讀會

(政府提出)

第十五 明治四十年法律第四十九號中改正法律案 第一讀會

(政府提出)

明治四十年法律第四十八號中「統監府」ヲ「朝鮮總督府」ニ、「判任」ヲ「内地人タル判任」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前退官シタル者ニモ之ヲ適用ス

統監府及其ノ所屬官署並鐵道院韓國鐵道管理局及朝鮮鐵道管理局ニ於ケル在職ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル在職ト看做ス

明治四十年法律第四十九號中改正法律案

明治四十年法律第四十九號中「統監府」ヲ「朝鮮總督府」ニ、「巡查」ヲ「内地人タル巡查」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前退職シタル者ニモ之ヲ適用ス

統監府及其ノ所屬官署ニ於ケル在職ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル在職ト看做ス

(政府委員安廣伴一郎君登壇)

○政府委員(安廣伴一郎君) 第一、明治四十年法律第四十八號ト申シマスノハ、朝鮮ニ在勤致シマストコロノ官吏ノ恩給及扶助料ニ關シマシテ、三年以上勤續致シマシタルモノニハ一箇月ニ付テ半箇月ヲ加算スルコト云フ法律デゴザイマスガ、今回朝鮮ガ我領土ニナリマシテ「統監府」ヲ「朝鮮總督府」ト改メマシタカラ單ニ其文字デケラ改メマシタケルコトデゴザイマスツレカラ朝鮮人タルトコロノ判任官以上ニハ適用致シマセヌカラ「内地人タル」ト云フ字ヲ加ヘマスデケル簡單ナ案デゴザイマス、次ノ案モ是同ジク恩給及扶助料ニ關シマシタルモノデゴザイマスガ、是ハ巡查ニ關係ヲ致シテ居リマストコロノモノデアリマス、同ジク「統監府」ト云フ文字ヲ「朝鮮總督府」ト改メマシテ、「内地人」ト云フ字ヲ加ヘマス案デゴザイマス御贊成アラントラ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質疑モナト認メマスカラ日程第十四、第十六、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 兩案ヲ一括シテ議長指命ノ九名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 兩案ヲ一括シテ議長指命ノ特別委員九名ニ付託スルコトニ御異議アリマセシカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナト認メマスカラ其通り決シマス——日程ノ第十七、第十九及第二十一ハ軍人恩給ニ關スル議案ナルニ依リ、一括シテ議題トナスニ御異議アリマセシカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ軍人恩給法中改正法律案、明治三十二年法律第七十六號中改正法律案、明治三十二年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、石本陸軍次官

第十七 軍人恩給法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十九 明治三十二年法律第七十六號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十一 明治三十二年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス
第六條但書中「十一年ノ額トス」ヲ「十一年ノ額トシ陸軍一等樂長及海軍兵曹長同相當官ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官六等ノ額ニシテ其他ノ海軍兵曹長同相當官ニハ高等官七等ノ額、陸海軍准士官ニシテ其官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス」ニ改ム

第十六條中「其額ハ第四號表ニ依リ」ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ
給助金ハ死歿者ニ在リテハ死歿シタルトキノ現官階ニ應ジ第四號表六年ノ額ヲ給シ現役ヲ離レタル者ニ在リテハ現役ヲ離レタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第四號表ニ依リ之ヲ給ス

但陸軍一等樂長、海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ニ給スル額ハ第六條但書ノ例ニ依ル
第十七條第一項第一號但書中「兵卒トナリタル日」ノ下ニ「同條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日」ヲ加フ

第二十四條第六號ヲ左ノ如ク改メ 同條第七號中「諸卒」ヲ「陸海軍下士及諸卒」ニ改ム

六 陸軍下士上等兵及同等級者ニ於テハ陸軍懲罰令ニ依リ又ハ素行修ラヌ若クハ其職務ヲ辱シムルニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト其服役年數トニ從ヒ左ノ各號ニ依リ之ヲ給ス但現役五十年以上又ハ十一年未滿ノ者並陸軍一等樂長、海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ノ寡婦ニ給スル額ハ第六條但書ノ例ニ依ル

一 前條第一ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額

二 前條第二ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ二
三 前條第三ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一
扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
第一號表第二號表及第四號表ヲ附表ノ如ク改ム
第五號表 削除
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年四月一日以後本法施行ノ日迄ニ於テ現役ヲ離レ又ハ現役中死歿シタル者及其ノ遺族ニ給スヘキ恩給ノ金額ハ本法ノ規定ニ依ル
本法施行以前退職恩給、免除恩給、給助金又ハ扶助料ヲ受ケヘキ權利發生シタル者ニ給スヘキ恩給ノ金額ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外總テ從前ノ規定ニ依ル
從前ノ規定ニ依リ退職恩給又ハ免除恩給ヲ受ケ死歿シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料及其ノ轉給ヲ受ケヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第一號 退職恩給表

年等	將官及相當官				佐尉官及相當官				准士官			
	親任	高等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	判任官	一等
十一年	一、八〇〇	一、四〇〇	一、二五〇	九〇〇	七五〇	五五〇	三六〇	二七〇	二二〇	一八〇		
十二年	一、八三五	一、四一〇	一二七五	九一八	七六三	五六〇	三七七	二七五	二二五	一八四		
十三年	一、八七〇	一、四六〇	一、三〇〇	九三六	七七六	五七〇	三七四	二八〇	二三〇	一八八		
十四年	一、九〇五	一、四九〇	一、三三五	九五四	七八九	五八〇	三八一	二八五	二三五	一九二		
十五年	一、九四〇	一、五二〇	一、三五〇	九七二	八〇二	五九〇	三八八	二九〇	二四〇	一九六		
十六年	一、九七五	一、五五〇	一、三七五	九九〇	八一五	六〇〇	三九五	二九五	二四五	二〇〇		
十七年	二、〇一〇	一、五八〇	一、四〇〇	一、〇〇八	八二八	六一〇	四〇二	三〇〇	二四〇	二〇四		
十八年	二、〇四五	一、六一〇	一、四二五	一、〇二六	八四一	六一〇	四〇九	三〇五	二四五	二〇八		
十九年	二、〇八〇	一、六四〇	一、四五〇	一、〇四四	八五四	六三〇	四一六	三一〇	二五〇	二二二		
二十年	二、一一五	一、六七〇	一、四七五	一、〇六二	八六七	六四〇	四二三	三二五	二五五	二二六		
二十一年	二、一五〇	一、七〇〇	一、五〇〇	一、〇八〇	八八〇	六五〇	四三〇	三三〇	二六〇	二三〇		
二十二年	二、一八五	一、七三〇	一、五二五	一、〇九八	八九三	六六〇	四三七	三三五	二六五	二三四		
二十三年	二、二二〇	一、七六〇	一、五五〇	一一一六	九〇六	六七〇	四四四	三三〇	二七〇	二三八		
二十四年	二、二五五	一、七九〇	一、五七五	一一三四	九一九	六八〇	四五二	三三五	二七五	二四二		
二十五年	二、二九〇	一、八二〇	一、六〇〇	一一五二	九三二	六九〇	四五八	三四〇	二八〇	二四六		
二十六年	二、三二五	一、八五〇	一、六二五	一二七〇	九四五	七〇〇	四六五	三四五	二八五	二五〇		

十三年	二六	一〇二	九二	七四	六八	六三	五七	五一
十四年	二九	一〇五	九四	七六	七一	六五	五九	五三
十五年	三三	一〇八	九七	七九	七三	六七	六一	五六
十六年	三五	一一一	一〇〇	八一	七五	六九	六四	五八
十七年	二八	一一四	一〇三	八三	七八	七二	六六	六〇
十八年	三二	一二七	一〇六	八六	八〇	七四	六八	六三
十九年	三三	一二〇	一〇九	八八	八二	七六	七一	六五
二十年	三七	一二三	一一二	九〇	八四	七九	七三	六七
二十一年	四〇	一二六	一二五	九二	八七	八一	七五	六九
二十二年	四三	一二九	一二八	九五	八九	八三	七八	七二
二十三年	四六	一三二	一二二	九七	九一	八六	八〇	七四
二十四年	四九	一三五	一二四	九九	九四	八八	八二	七六
二十五年	五二	一三八	一二七	一〇二	九六	九〇	八四	七八
二十六年	五五	一四一	一三〇	一〇四	九八	九二	八七	八一
二十七年	五八	一四四	一三三	一〇六	一〇一	九五	八九	八三
二十八年	六一	一四七	一三六	一〇九	一〇三	九七	九一	八六
二十九年	六四	一五〇	一三九	一一一	一〇五	九九	九四	八八
三十年	六七	一五三	一四二	一一三	一〇七	一〇二	九六	九〇
三十一年	七〇	一五六	一四五	一一五	一一〇	一〇四	九八	九二
三十二年	七三	一五九	一四八	一一八	一一二	一〇六	一〇一	九五
三十三年	七六	一六二	一五一	一二〇	一一四	一〇九	一〇三	九七
三十四年	七九	一六五	一五四	一二二	一二七	一二一	一〇五	九九
三十五年	八二	一六八	一五七	一二五	一二九	一二三	一〇七	一〇二
三十六年	八五	一七一	一六〇	一二七	一二二	一一五	一〇〇	一〇四
三十七年	八八	一七四	一六三	一二九	一二四	一一八	一一二	一〇六
三十八年	九一	一七七	一六六	一三二	一二六	一二〇	一一四	一〇九
三十九年	九四	一八〇	一六九	一三四	一二八	一二二	一一七	一一一
四十年	九七	一八三	一七二	一三六	一三〇	一二五	一二九	一二三
四十一年	一〇〇	一八六	一七五	一三八	一三三	一二七	一二二	一二五

四十二年	二〇三	一八九	一七八	一四一	一三五	一二九	一二四	一一八
四十三年	二〇六	一九二	一八一	一四三	一三七	一三三	一二六	一二〇
四十四年	二〇九	一九五	一八四	一四五	一四〇	一三四	一二八	一二三
四十五年	二一一	一九八	一八七	一四八	一四二	一三六	一三〇	一二五
四十六年	二一五	二〇一	一九〇	一五〇	一四四	一三八	一三三	一二七
四十七年	二一八	二〇四	一九三	一五二	一四七	一四一	一三五	一二九
四十八年	二二一	二〇七	一九六	一五五	一四九	一四三	一三七	一二三
四十九年	二二四	二一〇	一九九	一五七	一五一	一四五	一四〇	一二四
五十年	二二七	二一三	二〇二	一五九	一五三	一四八	一四二	一二六

第四號 給助金表

年 等	將官及相當官				佐尉官及相當官				准士官				下 士
	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	
四 年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
五 年	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
六 年	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
七 年	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
八 年	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
九 年	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
十 年	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇

明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案

明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ朝鮮ニ在勤スル内地人タル陸海軍所屬ノ文官判任以上ノ者ニ之ヲ準用ス
明治三十五年法律第二十九號第一條ノ規定ハ朝鮮ニ在勤スル内地人タル陸軍監獄看守及陸軍警守ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ本法施行前ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

明治三十三年法律第七十六號中改正法律案

第一條中「臺灣」ヲ「朝鮮」「臺灣」ニ改ム

第三條中「第五表ノ半額」ヲ「第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一」ニ、「第

五號表ノ額」ヲ「第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ二」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前ノ服役月數ニモ之ヲ適用ス

明治四十三年四月一日以後本法施行ノ日迄ニ於テ死去シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ本法ノ規定ニ依ル

（政府委員男爵石本新六君登壇）

○政府委員（男爵石本新六君） 唯今議題ニ上リマシタル軍人恩給法中改正法律案是ハ理由書ニ述ベテゴザイマスガ如ク、俸給ノ増加ニ伴ヒロシテ恩給法ノ改正ヲ必要トシマスル件ト恩給最下限額ヲ基準トシテゴザイマスル寡婦孤兒ノ扶助料及救助金ヲヤハリ俸給ノ増加ニ伴ヒ並ニ其年數ニ應ジテ改正ラシタイト、斯ウ云フ理由デ軍簡ナ事柄デゴザイマス、ソレカラ明治三十三年法律第七十六號、是ハ朝鮮ガ此度併合ニナリマシタ關係カラ年限ノ加算等ヲ改正スル必要ガゴザイマシテ、茲ニ法律案ヲ提出致シマタ、明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案是モ朝鮮ノ併合ノ關係カラ致シマシテ、朝鮮ニ在勤スル陸海軍所屬ノ文官並ニ陸軍監獄看守及陸軍警守等ニ之ヲ準用スルト云フ改正デゴザイマス、極ク簡單ナモノデゴザイマスル御審議ノ上速ニ御協賛アラントラ希望致シマス

○議長（長谷場純孝君） 別ニ御質疑モナイヤウデアリマスカラ、日程ノ第十八、第二十二、第二十一ハ一括シテ即チ右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 議長指名タル十八名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（長谷場純孝君） 二案ヲ一括シテ議長指名ノ特別委員十八名ニ付託スルト云フコトニ御異議ハアリマセスカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（長谷場純孝君） 御異議ナシトシテ其通り決シマス、——日程第二十三乃至第二十五ハ委員長ヨリ都合ニ依リ延期ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセスカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（長谷場純孝君） 日程第二十三、第二十四、第二十五ハ延期ニ決シマス、——日程第二十六ハ、區裁判所名稱變更ニ關スル法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス

委員長山岡國吉君

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

（「拍手スル者アリ」）

第二十六 區裁判所名稱變更ニ關スル法律案（山岡國吉君提出） 第一讀會ノ續（委員長報告）

○山岡國吉君 區裁判所名稱變更ニ關スル法律案ハ政府ノ意見ヲ求メマシテ委員會議ニ於キマシテハ審査ノ上滿場一致ヲ以テ左ノ如ク修正ヲ致シマシタ「區裁判所名稱

變更ニ關スル法律案「ト云フ」ノ「裁判所名稱變更ニ關スル法律案」ト修正ヲ致シマシ
タ、ツレカラ「山口地方裁判所管内赤間關區裁判所」ヲ「下關區裁判所」ト鹿兒島
地方裁判所管内水引區裁判所ヲ「川內區裁判所」ト「盛岡地方裁判所管内磐井區
裁判所」ヲ「一關區裁判所」ト「樺太地方裁判所管内ウラシミロフカ區裁判所」ヲ
「豐原區裁判所」ト、ツレカラ「マウカ區裁判所」ヲ「眞岡區裁判所」ト改稱ヲ致シマシ
タ、ツレカラ表中「一關區裁判所」及「眞岡區裁判所」ト改稱ヲ致シマシ
「下關」ニ「水引」ヲ「川內」ニ「磐井」ヲ「一關」ニ「ウラシミロフカ」ヲ「豐原」ニ「マウカ」ヲ
「眞岡」ニ改メマシタ、ツレカラ附則ニ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト斯ウ滿
場一致ヲ以テ修正ヲ致シマシタ、テ理由ハ唯名稱が事實ト副ハストコロカラ、名實副ハセ
タト云フニ過ギナイノデアリマス、本法律案ハ政府モ同意ヲ表シタコトデアリマスルカラ通
過ヲ希望致シマス

○菅原傳君 本案ニ對シ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告 通り確
定セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告 通り確
定セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

第二十七 船舶法中改正法律案(米田櫻 第一讀會ノ續(委員長 報告))

第二十八 船舶検査法中改正法律案(米 第一讀會ノ續(委員長 報告))

○望月圭介君 委員會ノ經過ト結果ヲ簡單ニ報告ヲ致シマス、委員會ハ委員諸君
ノ勉勵ニ依テ慎重ニ調査ヲ重ネ、政府ニ於テモ亦此案ヲ小ナリトセズシテ、遞信次官
及管船局長ガ常ニ出席セラレマシテ其質問ニ答ヘ、及其意見ヲ述ベラレテ居リマス
デ、委員會ノ經過ハ速記シマシテ諸君ノ御手許ニ同シテアリマスルカラ、簡單ニ其要
ヲ摘シテ申シマス、本案ノ改正ハ當業者ノ最も希望スルトコロデアリマシテ、就中日
本船ニ於キマシテハ、僅カ百石位ノ違ヒニ於テ非常ノ迷惑ヲシテ居リマス、今日ノ規程ニ
於テハ到底引合ハナイガ爲メ、船ノ検査ヲ受ケルト云フ場合ニ於テハ其中ニ仕切ラシ
タリ、サウシテ積量ヲ少ニシマシテ、検査ヲ受ケ、爲ニ犯罪者ヲ出スト云フヤウナコトモアリ
マスシ、譬ヘテ言フニ見レバ僅カ二百石三百石位ノ船ハ殆ド小作人トモ謂フベキ有
様デアリ、嚴重ナル検査トカ、或ハ又之ヲ航海スルノ海技免狀トカ云フヤウナムツカ
シイ法律及命令ノ支配ヲ受ケルト云フコトハ非常ニ困難デアリガ故ニ、政府ニ於テモ當テ
十五噸未満ヲ二十噸ニシ、百五十石ト云フモノハ二百石ニシテラレトモアルノデアリマス
カラ、此改正ト云フモノハ極メテ時機ヲ得タモノデアリトシテ委員會ハ國民黨及中央黨
ノ委員諸君モ賛成セラレマシテ可決ヲシタ次第デアリマス、而シテ之ニ對シテ政府ハ此
案ハ殆ド世界共通トモ謂フベキ案デアリ、サウシテ義務モ負ハネバナナイケレドモ權利
モ享有スルノデアリカラ是マデ検査法ト云フコトニ付テハ随分検査官ノ非常識又ハ沒經

濟ト云フヤウナコトノ非難モアタ、ケレドモ政府モ大ニ省ミルトコロガアルカラシテ、是等ノ
點ニ付テハ十分ナル改良ヲ加ヘタイト云フ考ハ持テ居ルト云フコトノ斷言ヲセラレマシタ
ガ、不幸ニシテ此案ニ對シテハ遺憾ナガラ賛成ヲ表スルコトハ出來ヌト云フノデアリマシ
タ、ケレドモ前申上ケマシタ通りニ委員會ハ大多數ヲ以テ可決ヲシタ案デアリマスルカラ、
此段御報告ヲ申シテ諸君ノ御賛成ヲ請ヒマス

○菅原傳君 兩案トモ各、直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告 通り決
定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 兩案トモ各、直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長
報告 通り決定シタイト云フ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシ「ア聲起ル」

○議長（長谷場純孝君） 兩案ヲ一括シテ議長指名ノ特別委員九名ニ付託ト云フニ
トニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長（長谷場純孝君） 御異議ナイト認メマスカラ其通り決シマス、日程第三十一、
樺太漁業料改正ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、議案ヲ朗讀ハ省略致シマス——提出
者小橋榮太郎君

樺太漁業料改正ニ關スル建議

現當樺太漁業料入札制度ハ國庫ノ收入ニ急ニシテ漁業ノ發達ヲ阻害シ而シテ其ノ收入モ亦確的ナラサルノ懼アリ今ヤ當業者ハ其ノ負擔、過重ニ堪ヘス不納處分ノ爲漁業免許權ヲ取消サレテ產業ヲ失フモノ、倍々其ノ數ヲ増加シ來レリ勿論競爭落札ノ結果當業者自ラ招クノ致ス所ナルヘシト雖事情ニ適應セサル現行制度ノ罪蓋其ノ素因タラスムハアラス政府ハ速ニ這般國庫ニ不安ニシテ且當業者ニ不利ナル漁業入札制度ヲ改善シテ樺太漁業ノ一大發展ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ本人ノ望ミノ通り撤回致シマス、日程第三十二、高等染織専門學校設置ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス——提出者武藤金吉君

專設專門學校設置二

各種工業ノ發展ヲ圖ルハ目下ノ急務ナリト雖就中海外輸出物ニ關スル工業ノ如キハ其ノ最タルモノトス而シテ我カ邦ハ生絲ノ特產地タルニ拘ラス輸出織物トシテハ多クハ半成品タル羽二重ノミニシテ加工染織ノ既成品極メテ尠ナキハ主トシテ染織ニ關スル知識ノ幼稚ナルニ由ラスムハアラス宜シク之ヲ養成スヘキ機關ヲ設ケ獎勵發達ヲ計ラサルヘカラス依リテ政府ハ次年度ニ於テ高等染織專門學校ヲ斯業者多キ地方ニ設置セラレムコトヲ望ム

○武藤金吉君 當席カラ説明ヲ致シタウゴザイマス、此案ハ昨年モ建議案トシマシテ

當院ヲ通過ヲ致シマシタ案デアリマス、絹ノ價ハ丁度世界ノ銀ノ價ト同ジコトデアリマシテ、而シテ之ヲ織リマスレバ金ノ價トナル位デアリマシテ、我國ニ於キマシテハ此輸出ニ關係致シマストコロノ染織ノ科學ハ決シテ歐米ニ比べキ科學ハナイノデアリマス、故ニ此輸出織物業ニ向ッテ高等染織專門學校ヲ創設致シタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、何卒滿場一致ヲ以テ此案ノ成立アランコトヲ希望致シマス

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（長谷場純孝君） 本案ハ議長指名ノ特別委員九名ニ付託ト云フコトニ御異議アリマセムカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ 其通りニ決シマス、日程第三十三、全國荷造改良共進會開催ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス——提出者遠藤吉平君

第三十三 全國荷造改良共進會開催ニ關スル建議案(遠藤吉平君提出)

全國荷造改良共進會開催ニ關スル建議案

荷造改良ノ緊要ナルコトハ曩ニ本院ヨリ請願ノ送付ニ依リ又第二十六回議會ニ於テ建議スルコトコノ如シ而シテ荷造改良ノ促進ヲ圖ラント欲セハ全國荷造改良共進會ヲ開クヲ以テ最必要ノ方法ナリト認メ荷造改良共進會ハ已ニ大阪商業會議所主催ト爲リ二回同市ニ開會シ好成績ヲ擧ゲタルモ尙充分ノ效果ヲ生ゼシムニハ一層大規模ノ舉ニ出テサルヘカラス依リテ政府ハ全國商業會議所(朝鮮及臺灣ノ商業會議所ヲ加フ)、東京迴米問屋組合、全國產業組合、全國米穀取引所府縣農會、全國海港貿易商組合其ノ他之ニ關係有スル團體ノ主ナルモノヲ網羅シテ發起人ヲシメ明治四十五年ヲ期シ東京市ニ全國荷造改良共進會ヲ開催シ又其ノ補助費トシテ參萬圓ヲ次年度ノ豫算ニ計上シ帝國議會ニ提出シ之カ協賛ヲ求メラレムコトヲ望ム

右建議ス

(遠藤吉平君登壇)

○遠藤吉平君 諸君、全國荷造改良ノコトニ付テ、昨年ノ議會ニモ建議致シマシタガ、又此度荷造改良共進會ノコトニ付テ建議致シマス、其趣意ハ大阪ニ於テ昨年十月商業會議所ノ主催トシテ全國ノ荷造改良共進會ヲ開キマシタガ其前二十七年ニモ大阪第一回ヲ開キ、又第二回モ大阪ニ開キマシタ、然レニ大阪ニ開キマシタトキハ攝、河、泉及其附近ノ地方ヨリハ出品モアリ、又觀覽者モアリマシタケレドモ、昨年ノ共進會ノ成績ヲ見マスト、山陰山陽或ハ東海道、東北、北陸其他北海道邊ノ人ハ實ニ稀ニ見受ケル位デ、其觀覽者ノ數ハ二十餘人アツタケレドモ實業家ニシテ觀覽スル者ハ一向ニ見エナイ位ノコトゴザイマシタ、其中主ナル御方ハ桂總理大臣始メ農商務大臣、後藤總裁、大久保商務局長、床次地方局長、下岡農務局長、大阪府知事、其他ノ官吏ハソレノ觀覽ナサレタケレドモ、實業家ト云フモノハ實ニ稀ナルコトデアリマシタ、第三回ノ荷造改良共進會ハ諸君ノ御手許ニ廻リテ居ル建議案ニアル如ク之ヲ東京ニ開キタイト云フ希望デアリマス、先年大阪ニ開キタル第一回、第二回ハ共ニ規模狹小ニシテ、一口ニ言ヘバ費用ノ十分ナラザルガタメニ其效果ヲ全國ニ及ボスニ至ラナカッタデゴザイマス、尤昨年開會前ニ大阪ノ會議所ガ政府ニ向テ補助ヲ願フタケレドモ豫算編成後ナルヲ以テ、政府ハ補助ガ出來ヌト云フノテ支出サレナカッタ、ソレ故ニ當業者即チ郵船會社トカ、或ハ大阪ノ商船會社トカ、大阪ノ府會、市會、其他個人ノ寄附ヲ以テ之ヲ開催シタル位デゴザイマス、然レニ其問題ハ實業上忽チ出來ナイ事業デアルカラ、本年ハ豫算編成前ニ此建議案ヲ提出シテ、共進會ノ經費ノ中ヘ三萬圓ノ政府ノ補助ヲ請ヒ、其不足額ハ發起人或ハ當業者ノ寄附ヲ以テ開催スル積リデゴザイマス、而シテ其發起人ハ此建議書ニ書イタル如ク、各團體ヲ網羅スル組織デゴザイマス、是等ノモノヲ發起人トシタラバ、開會中ニ一度々二度位ハ責任上觀覽セザル者ハアルマイト思フ、地方費或ハ政府ノ補助ヲ受テ居ル團體、或ハ人民ヨリ經費ヲ徵收シテ居ル商業會議所ノ如キモ、此

ノ如キ今日改良スレバ今日ヨリ利益ノアル事業デモ、ナカノ、此事ニ眼ヲ著ケナイト云フノガ、或ハ多忙ノタメニ大阪マデ行カレヌト云フノガ、併シ是等ノコトハ予ガ申スマデモナイ、二十五億トカ二十億ノ内外債ガアツテ其責任ハ誰ガ持ツカト云ヘバ、五千萬六千萬ノ御互ガ連帶責任デ子孫々マデ負ウテ往カナケレバナラヌ、幾ラ地租ガドウダノ何稅ガ惡稅ダノト云ウテ見タトコロガ、此負債ノ返セナイ中ハ皆人民ノ負擔人民ノ責任デアルト云ハナケレバナラヌ、ソレハ戰爭ヲシテ見タトコロガ、國防ニハ宜イケレドモ戰ヲシテ利益ヲ得ルト云フコトハ出來ナイ、戰爭程國家ニ損害モノハナイ、戰爭ヲシテ勝ツデ見タトコロガ、其損害ノ實費ヨリ外ニ取ルトコロハナイ、戰爭ヲシテモ戰爭ヲシナイ平和ノトキデモ莫大ナ負債ハ皆生産或ハ產業ノ發達ニ依ツテ人民ガ返シテ往カナケレバ、到底幾十年經ツデモ此負債ヲ償還スルコトハ出來ナイ、然レニ此荷造改良共進會ハ唯荷造改良ノ完全ナタメニ途中ニ廢棄スルコト、或ハ損害スルコト云フコトハ申スマデモナイガ、其損失ハ今日ノ歲出トカ歲入トカ云フ多額ノ膨脹シタ點カラ云フト、一千万二千万ノ損失ハ憂フルニ足ラヌト云フカモ知ラヌガ、商取引ノ發達ヲ妨グルト云フコトハ此荷造改良ノ不完全ヨリ起ルコト、實ニ甚シク、此日本ノ商取引ハ全國ノコトハ申スマデモナイガ、東京ノ一部ニ於テモ、米ノ値段ガ一石十五圓トカ、或ハ十七圓トカ、小賣店デ往ケバ一斗何升トカ、唯今ノトコロデハ三升トカ、五升トカ何レヘ行ツデモ物價ノ値段ナドト云フモノハ區々マチノアルガ、ドウシテモ之ヲ一定スルヤウニセネバナラヌ、今度ノ建議書ニモ枘量ハ全國四斗俵ト云フコトニ書イタルケレドモ、是ハ當業者ト當局者ニ能ク協議シタ上デ何レニスルカ分ラナイケレドモ、時期ハ到來シテ居ル、其他總テノコトガ私ハ此荷造改良ノコトニ付テ、年來眼ヲ著ケタメニ昨年ノ暮ニ新橋ノ荷捌所、秋葉ノ原ノ荷捌所ヘ行ツデ見ルト、實ニ目モ當テラレレモノデハナイ、又此春一週間バカリ前ニ再ビ右ノ兩處ヘ行ツデ見タガ、ドウモ荷造改良ノ不完全ト云フコトハ夥シイ、然レニ之ヲ改良スルニ巨多ノ費用ト努力ヲ要スルカト云ヘバ、決シテ左様デナイ、ソレハ極ク容易イコトデ、是マデノ荷造改良ハ手入ヲ精密ニスレバ、汽車デモ汽船デモ運搬ニ堪ヘラレバ、今マデノ姿デハ汽車ニモ汽船ニモ運搬ニ堪ヘラレナイ、目モ當テラレナイ有様デアル、鐵道院ニ向テ何故コナ物ヲ受ケルカ、苦情ガ起ルデハナイイカト云ヘバ、サウデナイ、是ニハ條件ヲ附ケル、條件ハ何ダト云フト、痛シモ構ハナイ、御迷惑ヲ掛ケヌカラト、斯ウ云フ條件ヲ附ケルト云フコトダ、ソレ故ニ其損害ハ需用者ニ歸スルデアル、即チ十錢ニ賣ル物ハ十二錢、八錢ニ賣ルモノハ十錢ニ賣ルト云フヤウニ需用者ガ皆損ヲスル、需用者ノ損ハ即チ國ノ損ダ、又鐵道院ノミナラズ郵船會社ヘ行ツデ見テモ、大阪ノ商船會社ヘ行ツデ見テモ、實ニ目モ當テラレレモノデハナイ、之ヲドウモ直サナイト云フコトハ、是ハ年來斯ウ云フコトヲ言ウテモ、今日マデ米穀ニ對シテハ輸出検査所ノ設アルノハ漸ク十五縣バカリアル、其他ハマダ其設備ガナイ、併シ十五縣デモ、ソレダケノ分ハ先ツ米穀ニ付テハ稍、荷造改良完全ニナルヤウニ見エテ居ル、其他ハマダノ、從前ノ如ク少シモ改良ナナイ、ソレデ二十億三十億ノ負債ヲ人民ガ負擔シテ往カウ、子孫々マデ借金ヲ背負ツテ往カウト云フヤウナコトハ思ヒモ寄ラヌコトダ、此事ハソレナニムカシイコトデハナイ毎度言フ通り荷造改良ト云フコトハ、ソレナニ費用ヲ掛ケテヤルト云フコトハナイ、從前ヤツコトヲ從前ノ通り精密ニシテ、陸デモ海デモ迅速ナ機關ニ堪ヘラレサヘスレバ宜シイ、又外務省ノ通商局ノ各國ノ日本領事館ノ報告ヲ御覽ナシ、其報告ヲ見ルト實ニドウモ耻入ル話デアル、ソレハ定メテ御覽ニナシテ居ルダラウガ、主ニ此支那地方或ハ滿洲トカ滿洲其他向フヘ行ツタ物ハ其船ノ著ク度毎ニ苦情ヲ言ウテ來ル、サウ云フコトガ外務省ノ通商局ノ報告ニ依ツテ能ク分ッテ居ルノダカラ、ドウカハ一日モ早ク荷造改良ト云ウテモ全部

他ノ物ヲ以テ錢ヲ掛ケテヤラウト云フノハナ、從前ノ通りノ儘デ唯精密ニスルト云フノ
ガカラ、ツレナニムツカシイコトデハナイ容易イノ、ツレヤラナイト云フノハ財囊ノ中ヘ朝
口ヲ開ケテ物ヲ入レ、晚ニ口ヲ括ルノニ其財囊ノ尻ガ抜ケテ居ルノ、(笑聲起ル)尻抜ケ
ト云フ程デハナイガ、確ニ日本帝國ノ財囊ニ綻ガ出來テ居ル、綻カラ出ル物ハ大シタモ
一年ニ二千萬ヤ三千万デハナイコトハ統計デ明デハナイカ、山口縣デアラウガ、大分縣デ
アラウガ其他ノ諸縣ニ依ッテ明カナモノデ其他無形ナ損ト云フモノハ夥シイモノ、自分
物アラハ「ボツケツ」綻ビタ所カラ銅貨一枚落チテモ直グ綻ヲ直ス、サウ云フヤウナ譯ダ
ガ何デモ國ノ損ダ、社會ノ損ダト思フデ居ルガ、國ノ借金ハ御互五千万人連帶デ借用シ
テ居ルノ、ツレカラ一日モ早ク之ヲ改良スルヤウニ此運搬ニ堪ヘラレヤウニシタイ、此
事ハ今日物新シク言フノハナイ、既ニ三十年前カラ證據ガアル其證據ハ商業會議所
ノ時分カラ之ヲヤッテ、親切ニ振テ、所ガ其時分ニハ今ノ濫澤榮一男爵、濫澤喜作
トカ或ハ益田孝トカ森村トカ或ハ川崎正藏トカ皆生キテ居ルカラ明カナ證據ニナル、私
ハ其時説明ニ出テ一々其事ヲ證明シタケレドモ、三十年後ノ今日ニナッテモ同ジコト
デ、ナカク、是ハ改マラナイガ、國民ニ之ヲ改良スル責任ガアリ、國民ノ最モ注目スベキ
トコロデ、之ヲシナケレバ損ダト思フ、ツレ故ニドウカ一日モ早ク之ヲ改良スルコトヲ希望
スルタメニ、本案ヲ提出シタノデアリマスカラ、滿場諸君ドウカ御贊成ヲ願ヒタイ(拍手
起ル)

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程第三十四、區裁判所事務開始ニ關スル建議案ヲ議題トナシ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者稻村辰次郎君

第三十四 區裁判所事務開始ニ關スル建議案 稻村辰次郎 君外一名提出

區裁判所事務開始ニ關スル建議案

千葉地方裁判所管内佐倉區裁判所ハ設置以來未タ裁判事務ヲ取扱ハサル爲關係人民ノ不便渺カラス依リテ速ニ裁判事務ヲ開始セラレムコトヲ望ム
右建議ス

(稻村辰次郎君登壇)

○稻村辰次郎君 唯今議題ニ上ッテ居リマス建議案ニ付テ提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、本案ハ千葉地方裁判所管内佐倉區裁判所ノ事務開始ヲ望ムト云フ建議案アリマシテ、昨年モ同様ノ建議案ヲ提出致シマシテ諸君ノ御協賛ヲ得タモノデアリマス、一體此佐倉區裁判所ハ曩ニ設置セラレマシテ、其管内ニハ二ツノ出張所モ出來テ居ルノデアリマス、而シテ管轄區域モ廣ク、人口モ多クシマシテ、從ッテ裁判事件ノ如キモ千葉地方裁判所ノ管内ニ於キマシテハ、他ノ區裁判所ノ平均數ヨリモ多數ニ上ッテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ事務開始ヲセザルタメニ出張所ノ監督モスルコトガ出來ズ、

裁判事件ノ取扱モ爲スコトガ出來ナイト云フヤウナ有様デ、全ク裁判所タルコロノ實質ヲ缺イテ居リマス故ニ、當然管轄スベキコロノ裁判事件モ目下千葉區裁判所ノ兼務トナッテ居リマスノ、獨リ裁判事件ノ濫滯ヲ來スノミナラズ、距離遠隔ニシテ近キモ數里、遠キハ十數里隔ッテ居ルヤウナ譯ダ、關係人民ハ非常ニ不便ヲ感ジテ居ルノデゴザイマス、因テ速ニ裁判事務ヲ開始シテ關係人民ニ便宜ヲ與ヘテ貴ヒタイト云フノガ、本建議ノ趣意デゴザイマス、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ請ヒマス(拍手起ル)

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ム

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程第三十五及第三十六ハ鐵道ニ關スル建議案ナルニ依リ、一括シテ議題トナシ、各案毎ニ提出者ヲシテ辯明ヲナサシムルコトニ御異議アリマセヌカ

第三十五 金名鐵道建設ニ關スル建議案 笠川繼孝君外二名提出

鐵道速成ニ關スル建議案(名村忠治君外四名提出)

金名鐵道建設ニ關スル建議案

金名鐵道建設ニ關スル建議案

一石川縣下金澤ヨリ鶴來、牛首ヲ經テ福井縣下勝山、大野及岐阜縣下白鳥、八幡、上有地、關ヲ經テ愛知縣下名古屋ニ達スル鐵道

右線路ハ其ノ距離約九十哩餘ニシテ此ノ間農產物林產物等極メテ豐富ニシテ且軍事上兩市ノ連絡ヲ通スル點ニ於テ最樞要ナル鐵道ナリ依リテ政府ハ速ニ該鐵道ヲ建設シ金名地方無限ノ富源ヲ開發セラレムコトヲ望ム

右建議ス

鐵道速成ニ關スル建議案

鐵道速成ニ關スル建議案

一福井縣下敦賀ヨリ若狹國三方、遠敷、大飯ノ三郡ヲ經テ京都府下舞鶴ニ至ル鐵道

右ハ日本海沿岸ノ幹線ニシテ山陰北陸兩道ヲ連絡シ軍事上及交通上必要缺クヘカラサル線路ナルヲ以テ政府ハ速ニ該鐵道ノ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(笠川繼孝君登壇)

○笠川繼孝君 諸君本員ガ此金名鐵道建設ニ關スル建議案ヲ提出致シマシテ理由ヲ簡單ニ述ベマシテ、諸君ノ御考慮ヲ煩ハサント思ヒマス、此金名鐵道ハ石川縣下金澤市ヨリ鶴來、牛首ヲ經マシテ、福井縣下勝山大野及岐阜縣下白鳥、八幡、上有

地、關ヲ經マシテ愛知縣下名古屋ニ達スル加越濃尾ヲ貫通スル鐵道デゴザイマス、此加越濃尾ノ地方ハ農產物林產物礦產物等物資極メテ豐富デアリマシテ、殊ニ製絲羽二重ノ原產地ト云フデアリマス、又多大ナル輸出ヲ致シテ居リマスデアリマス、尙石川縣下ニ於ケル鶴來並ニ福井縣下ノ勝山大野附近ハ煙草ノ耕作地デアリマシテ、此所ニハ既ニ政府ニ於テ煙草專賣所收納所及工業場等ヲ設ケラレ是ガ一年間ノ產額約一百万圓以上ニ上ルデアリマス、其他農產物、林產物、礦產物等ハ最も豐富デアリマシテ、是等ノ物資ノ運輸上此鐵道ヲ建設シ此地方無限ノ富源ヲ開發セラレンコトヲ望ミマス、若夫レ軍事上ノ價值ニ至リマシテハ、沿海線ニ依ラズシテ最も安全ニ迅速ニ軍隊ヲ輸送スルヲ得、軍事上兩師團ヲ聯絡ヲ通ズル點ニ於テハ最も樞要ナル鐵道デアリマス故ニ、本案ヲ提出シマシテ所以デゴザイマス、賢明ナル諸君宜シク御洞察下サレマシテ滿場一致ヲ以テ此案ヲ通過アラントラ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第三十八、鐵道速成ニ關スル建議案提出者石村忠治君

〔石村忠治君登壇〕

○石村忠治君 簡單ニ提出ノ理由ヲ說明致シマス、本案ハ福井縣下敦賀ヨリ若狹ノ國三方遠敷大飯ノ二郡ヲ經マシテ、京都府下ノ舞鶴ニ達スル鐵道デゴザイマス、此鐵道ハ豫定線ニナツテ居リマスノデ、此間約五十哩ノ鐵道デアリマシテ、山陰ト北陸トノ聯絡ヲ計ルノ鐵道デアリマス、而シテ此鐵道ハ此裏日本ニ於ケル幹線ニナリマスノデ、此裏日本ノ幹線中ノ敦賀ト舞鶴間ガ中斷ヲサレテ居ルデアリマス、最も此鐵道ハ急ノ急ナルモノト存シテ居リマス、而シテ軍事上又必要デアラウト思ヒマス、即チ舞鶴軍港ト第九師團トノ聯絡ガ是ニ依ツテ成ルデアリマス、此鐵道ハ二十一議會ニ於テモ既ニ大多數ヲ以テ通過シテ居リマスノデ、必ズヤ四十四年度ノ豫算ニ計上サル、コト、信シテ居リマシテ、然ルニ本年度ノ豫算ニ計上サレマセヌハ誠ニ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、故ニ本年モ諸君ノ御協賛ヲ得マシテ可決ニナリマシテナラハ、政府ハ一日モ早く此鐵道敷設ニ著手ノ計畫ヲ立テラレンコトヲ希望シテ止マヌデアリマス、願クハ滿場諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス

○菅原傳君 兩建議案ヲ一括シテ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 日程三十五、三十八ノ二案ヲ一括シテ、議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルト云フニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ御異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス、日程第三十七ハ提出者ヨリ都合ニヨリ延期ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ御異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ第三十七ハ延期致シマス、日程第三十八、高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、提出者根本正君

第三十八 高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案(根本正君外一名提出)

高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案

我カ國中央氣象臺及地方測候所ヨリ發スル天氣豫報及暴風警報ハ地上ニ存スル各地ノ氣象觀測ニ依テ之ヲ豫知スルニアルモ近年ノ研究ニ依レハ高低氣壓ハ太氣ノ高層ニ其ノ動源ヲ有スルモノニシテ其ノ進行及盛衰ハ高層ノ溫度濕度等ニ依リテ定マルモノナルコトハ疑ナシ故ニ單ニ地上ノ觀測ノミニ依ルセズ高層ノ氣象ヲ觀測スルコトヲ得ハ暴風雨ノ發生モ其ノ以前ニ於テ之カ兆候ヲ認メ得ヘク從テ豫報警報ノ機ヲ逸シ又ハ的中ヲ誤ルカ如キコト少キニ至ルヘシ依リテ政府ハ速ニ高層氣象觀測所ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔根本正君登壇〕

○根本正君 高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、我國ニ於テハ中央氣象臺及地方測候所ヨリ發スルコトヲ天氣豫報及暴風警報ト云フモノガアリマスケレドモ、是ハ僅カ六七時間先キノコトホカ報告スルコトガ出來マセヌ、然ルニ近來先進文明國ニ於テハ此高層氣象觀測即チ地上ヲ始メ二里以上ノ所ニ紙鳶及輕氣球ヲ揚ゲマシテ是ニ依ツテ觀測シマスレバ、向フ四十時間ノコトガ能ク分ルコトヲ云フコトニナツテ、既ニ獨逸ニ於テモ國立ノモノガ二ツゴザイマス、其他亞米利加、英吉利、何レノ國ニ於テモ高層氣象觀測ト云フコトヲ致シマシテ、其利益スルコトハ專ラ漁業ニ付テ關係ガアルト云フコトデアリマス、此紙鳶ノ中ニ仕掛ケルモノハ即チ其一ノ物ガアツテ、其中ニ時計、寒暖計、風力計、濕度計、晴雨計ト云フヤウナモノガ一ノ直徑八九寸、長サ七八寸ノ物ノ中ニアツテ、是等ガ自動的ニ、是ヨリ先キ何時間ニハドウ云フコトガ出來ルト云フコトガ分ル、我國ニ於テハ此漁獲即チ一箇年ノ收入ガ最近ノ調ニ依ルトハ千二百二十八萬五千二百圓アル、是ニ對スル漁船ハ四十二萬七千六百八十八艘アリマス、併ナガラ今日高層氣象觀測所ノナイタメニ難破船ハ非常ニ多デアリマス、一箇年ニ難破船ガ漁業船デ九百三十八艘アリマス、又此タメニ人ノ死スルモノガドレダアルカト云フト、最近ノ調ニ依ルトハ千五百一十八人、斯ウ云フ非常ニ多クノ船ヲ痛メ又人ヲシテ死セシムルト云フコトハ、全ク高層氣象觀測所ノナイタメデアリマス、此船ヲ農商務省ノ調ニ依ルト一艘ヲ四百圓トシマシテ二十七萬二千五百圓ト云フ損害ヲ年々受クルト云フ譯ニナル、此高層氣象觀測所ガ出來マスレバ、斯ウ云フ暴風或ハ暴雨ト云フモノガ分リマスカラシテ此難ヲ全ク避クルコトガ出來ル、ソレ故ニ歐米ニ於テハ今日非常ニ漁業ガ發達シテ難ヲ受クルト云フコトガナイデアリマス、ドウカ此建議案ヲ諸君ノ御贊成ヲ得テ通過シテ、我國ニ於テモ此高層氣象觀測所ヲ一日モ早く設置セラレンコトヲ望ミマス

○菅原傳君 本案モ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルト云フニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ御異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス、日程第三十九、第四十八同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニヨリ、併セテ委員長ヨリ報告ヲ致シ

マ、第三十九ハ鐵道建設ニ關スル建議案、第四十ハ山陰縱貫鐵道速成ニ關スル建議案、委員長太田清藏君

第三十九 鐵道建設ニ關スル建議案(阿部政太郎 委員長報告)

第四十 山陰縱貫鐵道速成ニ關スル建議案(德田讓甫君外三名提出) (委員長報告)

(太田清藏君登壇)

○太田清藏君 報告ヲ致シマス、此案ハ青森縣下野邊地ヨリ分岐シテ大湊ニ到ル鐵道建設ノ案デアリスルガ、委員會ニ於テハ慎重ノ審議ヲ致シマシタ、尙政府ニ對シテ此案ニ對スル所見ヲ聽キマシタガ、政府ハ既ニ此鐵道ノ必要ナルコトヲ認メテ調査ヲ遂ゲテ居ル次第デアリマシテ、何等此建議案ニ對シテハ異議ノナイト云フ政府ノ所見デアリマス、ソレデ委員會モ必要ナル鐵道ナルコトヲ滿場一致ヲ以テ建議ヲ可決シテ次第デアリマス、其次ハ山陰縱貫鐵道速成ニ關スル建議、是ハ縱貫線ノ中山口ヨリ津和野、益田ヲ經テ濱田ニ達スル同西線ト云フ中間ニ當テ僅ニ山口濱田間ト云モノヲ殘サレテ居ルカラ、之ヲ急ニ敷設シテ貫ヒタイト云フ建議アル、最モ委員會ニ於テ慎重ノ調査ヲ遂ゲマシタ結果ハ、此建議ノ趣意ヲ可トシテ何等異議ナク、是亦滿場一致ヲ以テ此案ヲ可決シテ次第デアリマス、尙此案ニ對シテ政府ノ意見ハ、ヤハリ全體之ニ同意ヲ表シテ居ルノアルガ、何時カラ之ヲ著手スルト云フコトハ今日確答スルコトハ出來ヌガ、大體ニ於テハ無論贊成デアルト云フ、是亦政府ノ同意デアリマスカラ滿場一致ヲ以テ委員會ハ決定致シマシタ、此段御報告致シマス

○菅原傳君 兩案共委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御異議ガナイト認メマスカラ菅原君動議ノ通り兩案共委員長ノ報告通り可決致シマス、日程四十一、四十二ハ同一委員ニ附託セラレタル議案ナルニ依リ、併セテ委員長ヨリ報告致シマス、日程第四十一ハ羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案、日程第四十二ハ羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案、委員長高橋光威君

第四十一 羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案(高橋光威君外九名提出) (委員長報告)

第四十二 羽越沿岸鐵道敷設ニ關スル建議案(齋藤宇一郎君外十三名提出) (委員長報告)

(高橋光威君登壇)

(拍手起ル)

○高橋光威君 御報告致シマス、本案ハ慎重審議ノ末、政府委員ノ意見ヲ尋マシテゴザイマスルガ、政府ニ於テハ明治四十五年度ヨリ此線ニ著手シタイト云フ希望デアリマス、但財政ノ都合モアリマスケレドモ、四十五年度ヨリ著手シタイト云フ希望デアリマスガ、明言ハ出來ナイト云フノミデアリマシテ、非常ニ是ハ急要ナ鐵道ナルコトヲ云フコトハ政府モ十分ニ認メテ居ル譯デアリマス、尙種々ノ點ニ付キマシテ審査ノ末ニ、滿場一致ヲ以テ本案ハ可決スベキモノト認メマシタ次第デアリマス、尙外一件ト申シマスノハ齋藤宇一郎君外十三名ノ提出ニ係ルトコロノ同一建議案デアリマスガ、其内容モ亦全ク同一

デアリマシテ、既ニ前ノ一案ニ付テ審査ヲ經タル以上、更ニ之ヲ繰返スノ必要アリマセヌト云フコトニナリマシテ、審査ハ重ネマセヌデアリマシタガ、委員多數ノ希望ニ依リマシテ、是モ同様可決スベキモノト認メルコトニナリマシテゴザイマス、右御報告ヲ致シマス

○議長(長谷場純孝君) 先ツ日程第四十一ヲ議題ニ供シマス

○菅原傳君 是ハ委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ委員長報告通り可決致シマス——既ニ日程第四十一ノ議案ガ可決シマシタル以上ハ、日程ノ第四十二ハ委員長ノ報告通り同一案ナルニ依リ、最早決議ヲ要セザル者ト看做シテ、御異議ガアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス——御諮ヲ致シマス、決算委員花村覺三郎君病氣ノタメ辭任ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、同君ハ第三部選出ニ付同部ノ諸君ハ補缺ノ互選アラントラ希望シマス——武豐港修築ニ關スル建議案委員、花村覺三郎君病氣ノタメ辭任ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、而シテ其補缺トシテ春田祐清君ヲ指名致シマス——花村覺三郎君病氣ニ付キ、明二十二日ヨリ十三日間、請假ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコト、致シマス——是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

決議案

提出者 犬養 毅君 大石 正己君 河野 廣中君

一上越鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 武藤 金吉君 日向 輝武君 根岸 晴太郎君

青柳 信五郎君 山際 敬雄君

石橋爲之助君ヨリ郵便貯金ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

村松恆一郎君ヨリ危險思想防止策ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

水野正己君ヨリ正金銀行營業業務監督ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

○議長(長谷場純孝君) 議長ニ委託セラレタル委員ノ氏名ハ公報ヲ以テ御通知シマス——次回ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知シマス、本日ハ是ニテ散會

午後四時五十五分散會